
SoxPlusAdministratorKit

ユーザースガイド

SoxPlusAdministratorKit ユーザーズガイド

このユーザーズガイドでは、SOX+のカスタマイズの機能を有する、SoxPlusAdministratorKit の機能および使用方法を、手順ごとに詳しく解説します。

このユーザーズガイドは、SOX+の各種機能を理解されていることを前提としています。SOX+の機能の詳細については、『SOX+ ユーザーズガイド』をご覧ください。

SoxPlusAdministratorKit の SOX+ 整備/運用評価オプション追加機能についての詳細は、『SOX+ 整備/運用評価オプション ユーザーズガイド』をご参照ください。

*SOX+ 整備/運用評価オプションご利用ユーザーは、RCM 出力時に「RC 関連表」シートを出力することができます。本ガイドにも「RC 関連表」シートについての記述をしておりますが、こちらについても詳細は、『SOX+ 整備/運用評価オプション ユーザーズガイド』をご参照ください。

本『SoxPlusAdministratorKit ユーザーズガイド』の内容および関連する iGrafx FlowCharter ソフトウェアは、(株)サン・プランニング・システムズおよび iGrafx, LLC とそれぞれ該当するライセンサーの所有物であり、著作権によって保護されています。許諾無しに本ユーザーズガイドおよび関連ソフトウェアの全部または一部を複製することは、堅く禁止されています。

© SunPlanningSystems.Co., Ltd. All rights reserved.

iGrafx, iGrafx® FlowCharter®、iGrafx® Process™、および iGrafx® Process360Live® は、カナダ、合衆国、および/またはその他の国々における、iGrafx, LLC および/またはその子会社の商標または登録商標です。SOX+は(株)サン・プランニング・システムズの商標です。Microsoft、Windows、および Excel は、合衆国および/またはその他の国々における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。Adobe と Acrobat Reader は、合衆国および/またはその他の国々における Adobe Systems Incorporated の登録商標です。その他の製品、フォント、および会社名とそのロゴは、それぞれ該当する会社の商標または登録商標である場合があります。

iGrafx®

目次

第1章 SoxPlusAdministratorKit の概要	6
SoxPlusAdministratorKit の起動	7
SoxPlusAdministratorKit と定義データ	7
SoxPlusAdministratorKit 使用の流れ (イメージ)	8
第2章 SoxPlusAdministratorKit の機能	9
SoxPlusAdministratorKit のメニュー	9
SoxPlusAdministratorKit の使用手順	11
SoxPlusAdministratorKit を効率的にご利用頂くために	12
テストモード設定	12
第3章 既存配布ファイル定義データの読込	15
既存配布ファイル定義データの読込手順	16
第4章 SOX+画面・図形機能カスタマイズ	18
項目名・データリストの変更	18
変更箇所の選択方法	19
データ定義設定画面	21
文書情報ダイアログボックス	27
業務詳細ダイアログボックス	28
IT 業務詳細ダイアログボックス	29
リスクダイアログボックス	30
コントロールダイアログボックス	32
IT コントロールダイアログボックス	35
コントロール属性とターゲットリスク属性の違いについて	35
システムコンテナ	37
リスク辞書編集機能	38
リスク辞書 (RiskDictionary.xls) の編集・保存	38
SOX+図形・ナンバー設定	40
プレフィックス (図形ナンバー接頭語) 設定	40
メモ表示設定	41
図形ナンバーゼロ埋め表示設定	42
リスク図形 ナンバー表示設定	43
キーコントロール文字 (Key) の自動表示切替	44
第5章 出力帳票テンプレートカスタマイズ	45
RCM ファイルの構成	45
RCM フォーマットの変更	46
RCM テンプレートの表示	46
RCM 出力情報の設定	53
RCM データ出力位置の変更	54
データ出力位置の変更をする前に	54
最初の警告メッセージ	54

RCM データ出力位置の変更	55
RCM コントロール表示設定	57
帳票一覧フォーマットの変更	58
帳票一覧テンプレートの表示	59
帳票一覧出力情報の設定	60
第6章 配布ファイル作成	61
配布ファイルの設定項目	62
保存先	62
配布ファイルに同梱するコレクション・iGrafx テンプレートファイル	62
配布先ユーザーのカスタマイズ定義データの取込位置	63
第7章 配布ファイルの履歴管理	64
配布ファイル作成履歴	64
第8章 整備/運用評価テンプレートカスタマイズ	66
第9章 サンプル図形集	68
サンプルコレクション図形集の追加	68
サンプルコレクションの紹介	69
第10章 自社用図形集と iGrafx テンプレートを作る	73
自社用図形集を作成する	73
図形の編集方法	73
iGrafx テンプレートの作成	78
iGrafx テンプレートサンプルの活用	78
業務詳細項目フィールドの利用	80
第11章 付録	83
業務記述シート列情報	83
RCM シート列情報	86
使用帳票一覧シート列情報	92
証憑一覧シート列情報	94

第1章 SoxPlusAdministratorKitの概要

本書では、SOX+で使用する図形の入力画面及び RCM 出力時に作成される RCM ファイルのフォーマットなどをカスタマイズできる SoxPlusAdministratorKit（以降、文中では AdministratorKit と略称）の使用方法を説明します。

SOX+は、日本版 SOX 法と呼ばれる金融商品取引法や会社法で要求されている要件に合わせた内容を目指して開発されていますが、選択項目リストをカスタマイズして自社に合わせて利用したいというご要望を実現するために、AdministratorKit をご提供しております。

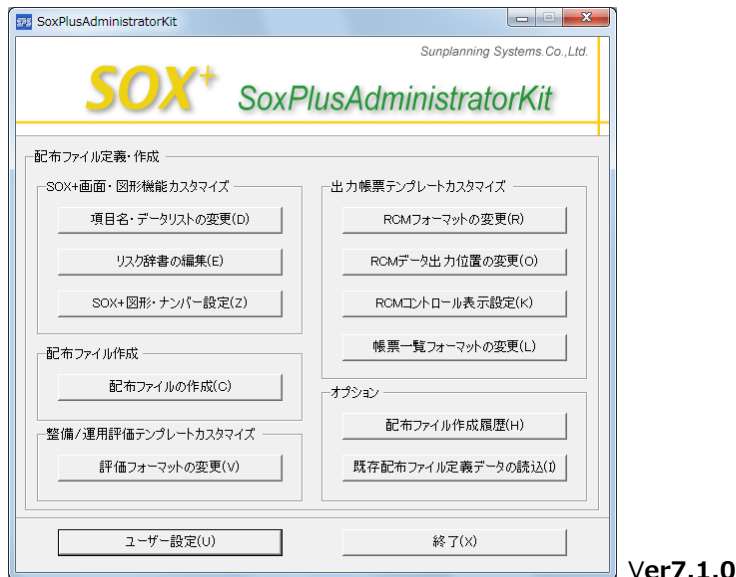
AdministratorKit では以下のカスタマイズが可能です。

詳細内容については、該当ページの説明をご覧ください。

- ・ SOX+図形（文書情報、業務詳細、リスク、コントロール、システムコンテナ）ダイアログボックスの各項目名、選択リストなどの変更、項目の表示方法を変更できます。(P18)
- ・ RCM テンプレートのフォーマット（表示項目の切り替えや項目名の変更、書式の変更、さらには項目の並び替え）を変更できます。(P45)
- ・ リスクの入力を補助するリスク辞書を作成することができます。(P38)
- ・ SOX+図形を識別するプレフィックス（各ナンバーの前につける文字）を変更することができます。(P40)
- ・ 業務詳細、リスク、コントロールの図形に登録した情報をポップアップ表示することができます。(P41)
- ・ 業務詳細、リスク、コントロールの図形のナンバーをゼロ埋めで表示することができます。(P42)
- ・ リスク図形に表示する情報を、リスクナンバーから分類番号へ変更することができます。(P43)
- ・ キーコントロールに「Key」と表示することができます。(P44)
- ・ RCM フォーマットの列順、列表示、データのソート順を変更することができます。(P54)
- ・ RCM に表示されるキーコントロール行の背景色の表示有無を設定することができます。(P57)
- ・ RCM 出力時に、「既出コントロール非表示切替」設定の表示有無を設定することができます。(P57)

SoxPlusAdministratorKitの起動

スタートメニューの「すべてのプログラム」より「iGrafx」フォルダの中にある「SoxPlusAdministratorKit」をクリックし、起動します。



SoxPlusAdministratorKitと定義データ

定義データとは

SOX+の各ダイアログボックスの画面、各機能の動作は、定義データと呼ばれる多数の設定ファイルによって定義されています。

AdministratorKit は、同じバージョンの SOX+の定義データと同一内容の定義データを持っており、その定義データは、AdministratorKit の各カスタマイズ機能から直接編集・更新することができます。(同じ PC に SOX+がインストールされていても、SOX+の定義データを編集しているわけではありません。)

AdministratorKit が持っている定義データに対して必要な編集・更新を行い、それらの定義データをユーザーとユーザーでやり取りのできるファイルにすることができます。このファイルを配布ファイルと言います。

SOX+のメニューから配布ファイルを指定して取込をすると、SOX+は配布ファイルから取り込んだ定義データに従って動作するようになります。

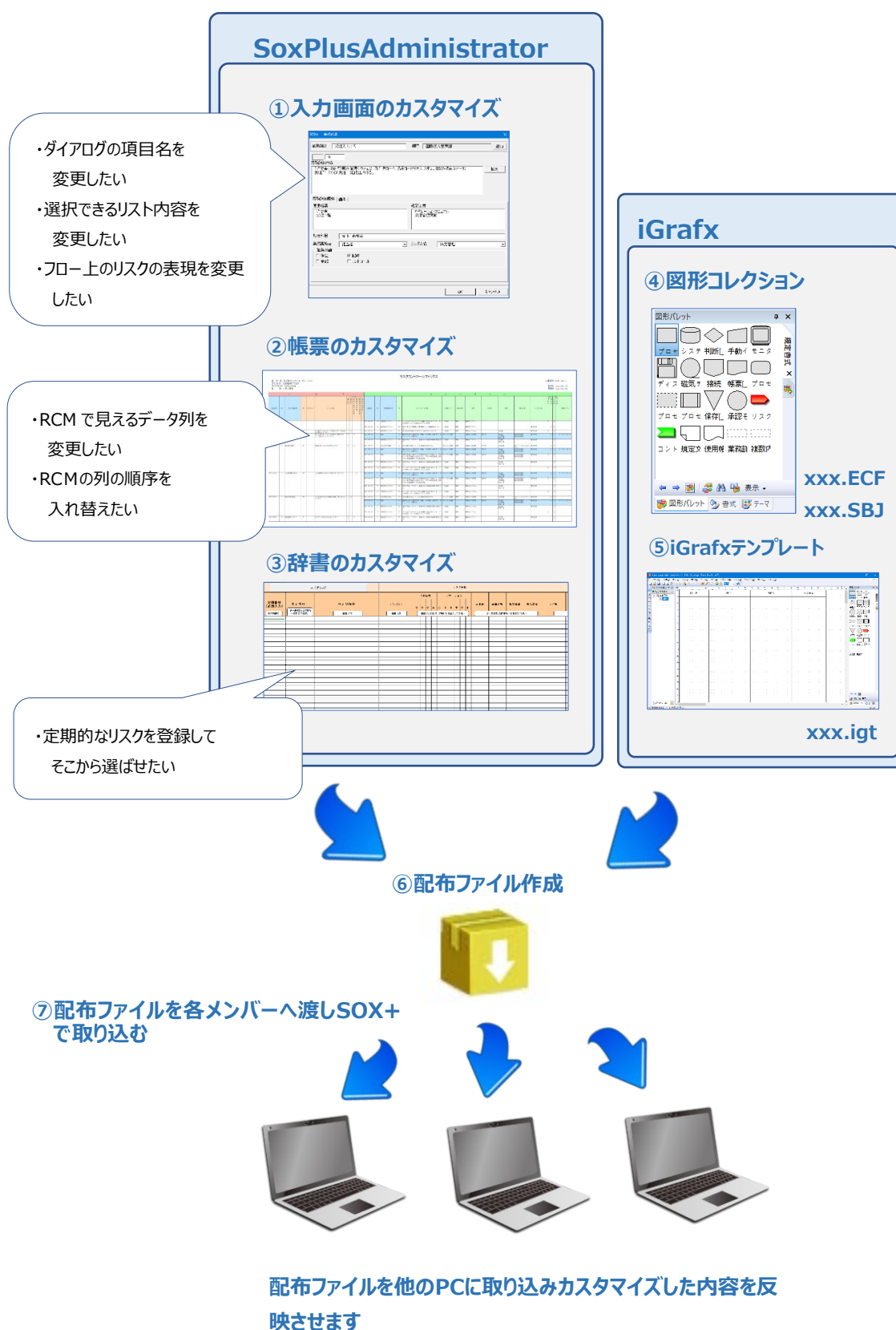
定義データの保存

AdministratorKit の定義データは、使用するユーザーごとに保存されています。

定義データは、初期化するか、配布ファイルや履歴から以前の定義データを読み込んだりしない限り、それまでの編集内容がそのまま保持されます。

AdministratorKit の各カスタマイズ機能で何かを変更した場合、そのユーザーの定義データを直接書き換えます。大きな変更を加えたり、色々を変更を試みたいような場合は、必ずそれまでの状態を配布ファイルとして保存するようにしてください。変更を元に戻したい場合、最後に保存した配布ファイルの状態に戻すことしかできません。直前の変更だけを部分的に元に戻すようなことはできませんのでご注意ください。

SoxPlusAdministratorKit使用の流れ（イメージ）



第 2 章 SoxPlusAdministratorKitの機能

この章では、AdministratorKit の機能の概要について説明します。
AdministratorKit の各メニューで変更した内容は、自動的に定義データに保存されます。

SoxPlusAdministratorKitのメニュー



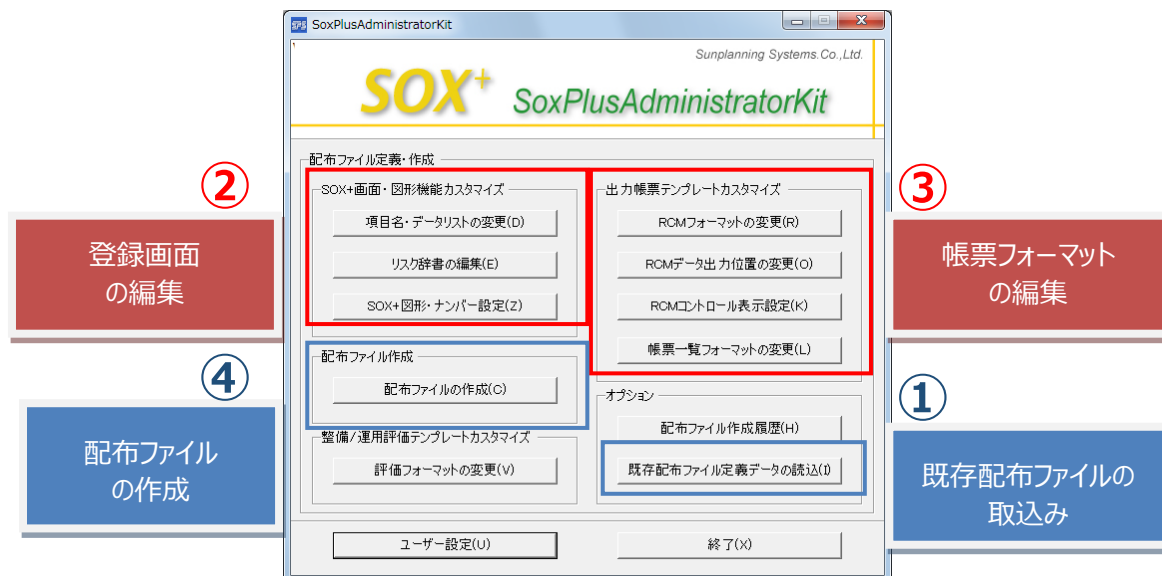
AdministratorKit の主な機能は以下の通りです。

配布ファイル定義・作成		
SOX+画面・図形機能カスタマイズ (→第 4 章 P18～)		
項目名・データリストの変更	SOX+ダイアログボックスの各欄の設定を変更します。	
リスク辞書の編集	リスク入力時にテンプレートとして使用するリスク辞書を設定します。	
SOX+図形・ナンバー設定	全般	プレフィックス（RやCなどの図形ナンバーの接頭語）を設定します。
	業務詳細図形	メモ表示機能（業務詳細内容のポップアップ機能）を使用するかどうかを設定します。
	リスク図形	リスク図形上の表示を、ナンバー表示にするか分類番号表示にするか指定します。 メモ表示機能（リスク内容のポップアップ機能）を使用するかどうかを設定します。
	コントロール図形	キーコントロール文字（Key）を自動表示するか、非表示にするかを指定します。 メモ表示機能（コントロール内容のポップアップ機能）を使用するかどうかを設定します。
出力帳票テンプレートカスタマイズ (→第 5 章 P45～)		
RCMフォーマットの変更	RCMテンプレートの表示	RCMテンプレートの外観を変更します。

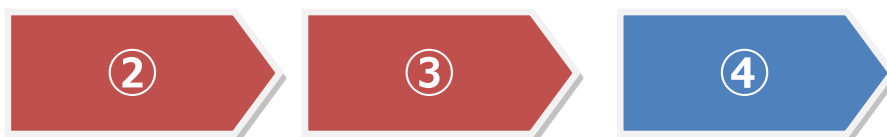
		RCM出力情報の設定	RCM出力する情報（シート）を指定します。
	RCMデータ出力位置の変更	RCMテンプレートの各項目の位置（列）を変更します。 ※この変更を行うとRCMテンプレートは初期化されます。	
	RCMコントロール表示設定	RCM	RCM上で「キーコントロール」の背景の色を変更するか指定します。
			RCM出力時に既出コントロール非表示切替機能（既出コントロールを繰り返し出力するか、2回目以降非表示にするかを切り替える機能）を使用するかを指定します。
		※RC関連表	RC関連表のコントロール表記を設定します。
	帳票一覧フォーマットの変更	帳票一覧テンプレートの表示	帳票一覧テンプレートの外観を変更します。
		帳票一覧出力情報の設定	帳票一覧出力する情報（シート）を指定します。
整備/運用評価テンプレートカスタマイズ（→第8章 P66～）			
	評価フォーマットの変更	整備／運用評価テンプレートおよび有効性評価テンプレートの外観を変更します。 ※「SOX+ 整備／運用評価オプション」のライセンスキー入力が必要です。	
	配布ファイル作成（→第6章 P61～）		
	配布ファイルの作成	AdministratorKitの定義データを配布ファイルとして保存します。	
	オプション		
	配布ファイル作成履歴	（→第7章 P64～） 配布ファイルの作成履歴を表示して、そのときの設定に戻すことができます。	
	既存配布ファイル定義データの読込	（→第3章 P15～） 配布ファイルから定義データをAdministratorKitに読み込むことができます。設定の初期化もここでを行います。	
	その他		
	ユーザー設定		
	カスタマイズ定義テストモード設定	（→第2章 P12～） テストモード中は、同じPCにインストールされているSOX+の動作を、AdministratorKitの設定に一時的に同期させます。 SOX+で同時に確認しながらカスタマイズができます。	
	サンプルコレクション図形集の追加	（→第9章 P68～） 同じPCのiGrafx FlowCharterに、内部統制文書化プロジェクト用の図形サンプル集を追加します。	

SoxPlusAdministratorKitの使用手順

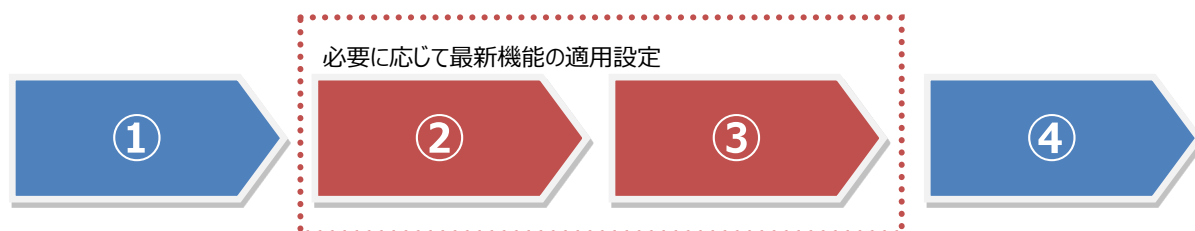
AdministratorKit では、たくさんのカスタマイズ機能を持っていますが、ここでは目的に応じた使用手順をいくつか簡単に示します。参考にしてください。



1. 初めて配布ファイルを作成する場合



2. 旧バージョンの配布ファイルを最新バージョンにバージョンアップする場合
※SOX+およびAdministratorKitをバージョンアップする際は、配布ファイルもバージョンアップする必要があります。



SoxPlusAdministratorKitを効率的にご利用頂くために

AdministratorKit でカスタマイズした定義データは、通常、配布ファイルを作成して iGrafx の SOX+メニューで取込むことによって、カスタマイズした定義データの内容を確認することができます。

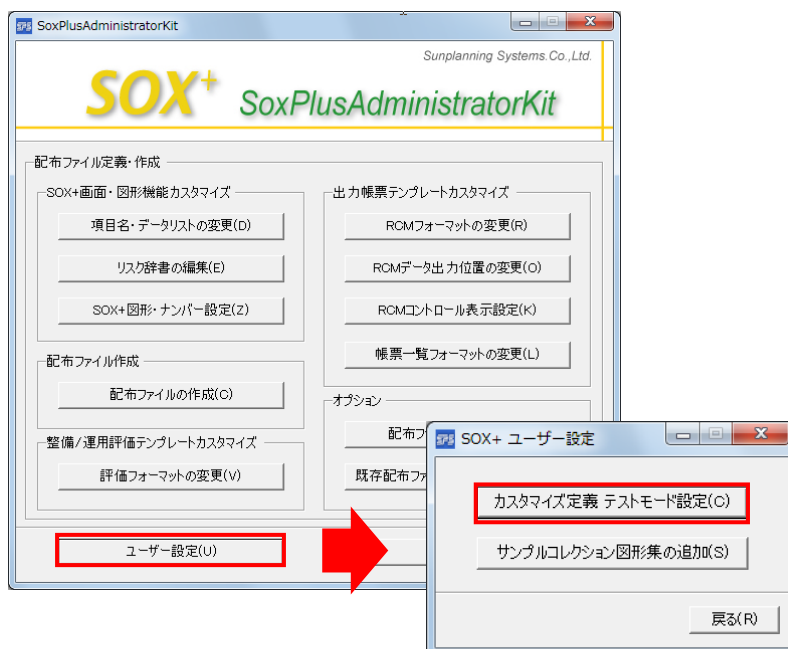
しかし、カスタマイズした内容が SOX+ の画面でどのように反映されるのかを、毎回配布ファイルを作成して、SOX+メニューで取り込んで確認しては大変です。

AdministratorKit では、カスタマイズした内容をすぐに確認できるテストモード設定機能を備えています。

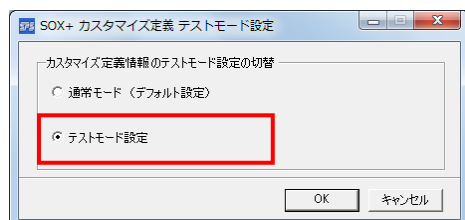
テストモード設定

テストモード設定を適用すると、同じ PC にインストールされている SOX+が、AdministratorKit の設定に同期して動きます。

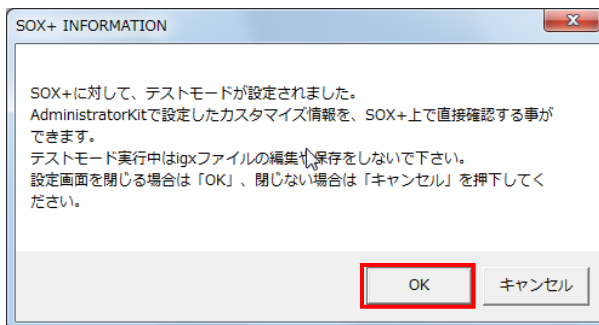
- ① AdministratorKit の「ユーザー設定」をクリックし、「カスタマイズ定義 テストモード設定」ボタンをクリックします。



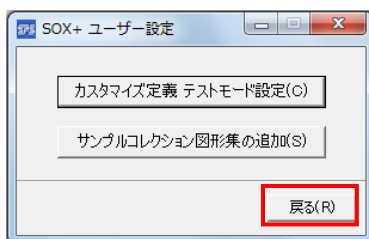
- ② 『テストモード設定』にチェックを入れ、「OK」ボタンをクリックします。



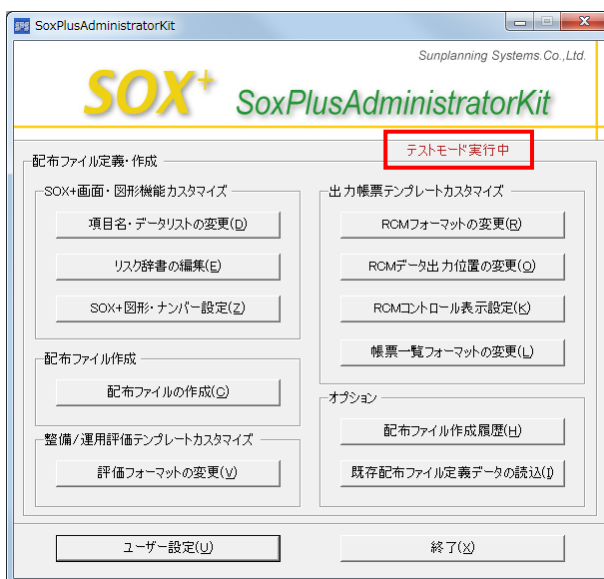
- ③ メッセージが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。



- ④ 「戻る」ボタンをクリックします。



- ⑤ AdministratorKit のトップ画面に「テストモード実行中」と表示されます。



テストモード設定は、もう一度切り替えるか、AdministratorKit を終了するまで有効です。

テストモードの間は、設定内容の確認のみを行い、業務フローチャートの編集や保存を行わないようにしてください。

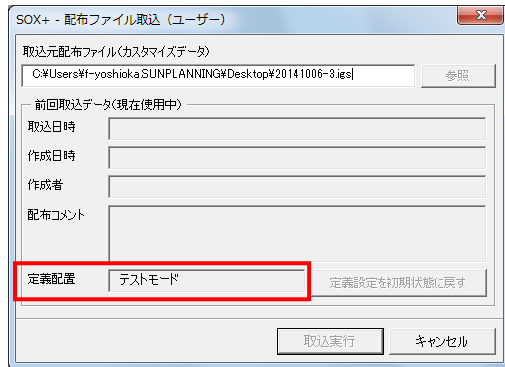
（業務フローチャートを開いたままテストモードへ切り替えた場合は、業務フローチャートを閉じて、新しい文書か、どう変更してもかまわないような文書を開いてください。）

SOX+ の画面で確認

業務フローチャートを編集している iGrafx ツールで、テストモードであることを確認することができます。

SOX+メニューより「SOX+のバージョン情報」を開き、「配布ファイル取込」ボタンをクリックします。

「前回取込データ（現在使用中）」の中の「定義配置」が「テストモード」になっていることを確認します。

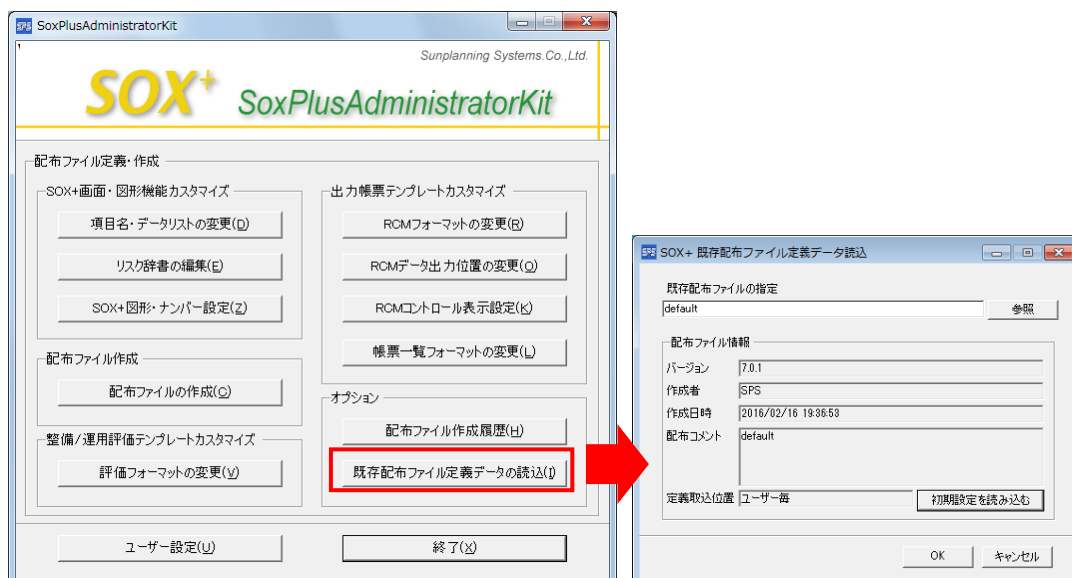


第3章 既存配布ファイル定義データの読込

「既存配布ファイル定義データの読込」機能は、既に存在する配布ファイルを読み込み、設定内容を引継ぎます。

この機能は、以下のようなケースに使用して頂くことができます。

- ・ SOX+のバージョンアップに伴い、配布ファイルをバージョンアップする場合、旧バージョンの配布ファイルを最新バージョンの AdministratorKit に読み込み、以前の設定を引き継ぎます。
- ・ PC の入れ替えがあった場合、新しい PC にインストールした AdministratorKit に配布ファイルを読み込み、以前の PC で作成していた設定を引き継ぎます。
- ・ 配布ファイル作成者が変更になった場合、以前の担当者が作成した配布ファイルを新しい担当者の AdministratorKit に読み込み、以前の担当者が作成していた設定を引き継ぎます。

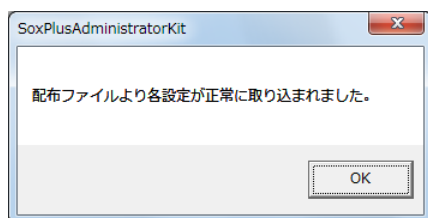


内容	説明
既存配布ファイルの指定	読込対象の配布ファイルを指定します。
配布ファイル情報	指定した配布ファイルの詳細データが表示されます。
初期設定を読み込む	すべての設定内容を初期状態に戻します。

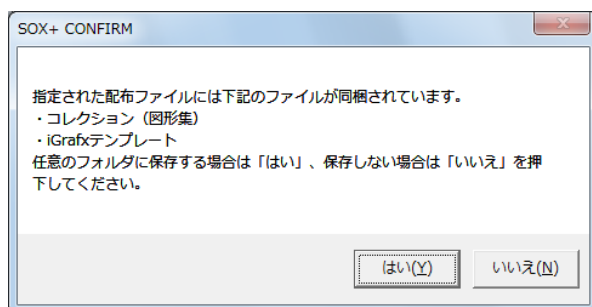
既存配布ファイル定義データの読込手順

手順は以下の通りです。

- ① 「既存配布ファイル定義データの読込」ボタンをクリックし、「既存配布ファイル定義データ読込」ダイアログボックスを開きます。
- ② 「参照」ボタンより読込対象の配布ファイルを指定し「OK」ボタンをクリックします。
- ③ 以下のメッセージが表示されます。「OK」ボタンをクリックします。



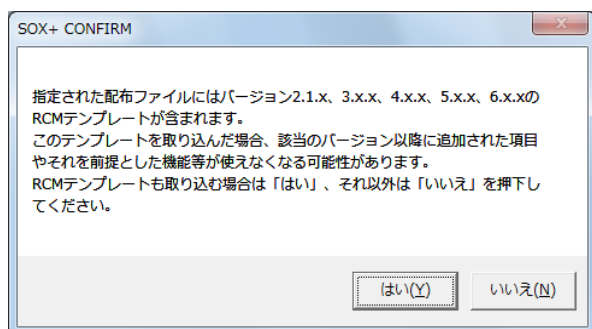
- ④ 配布ファイルに図形集とiGrafxテンプレートが含まれていた場合は、以下のメッセージが表示されます。



- ⑤ 保存する場合は「はい」をクリックし、保存先フォルダを指定します。

読込対象の配布ファイルにより、メッセージが異なります。

1. 旧バージョン<2.1.0以降>の配布ファイルの場合

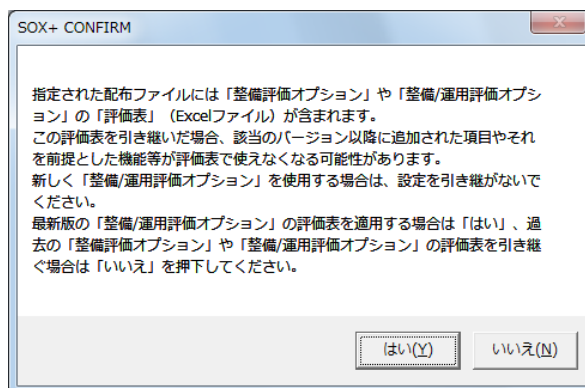
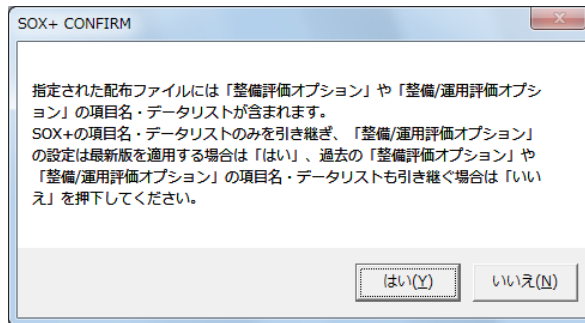


※2.1.0 より古いバージョンの配布ファイルについては、以前の RCM テンプレートを取り込むことができないため、上記メッセージも表示されません。最新の RCM テンプレートを編集してご利用ください。

2. SOX+ 整備/運用評価オプションをご利用の場合

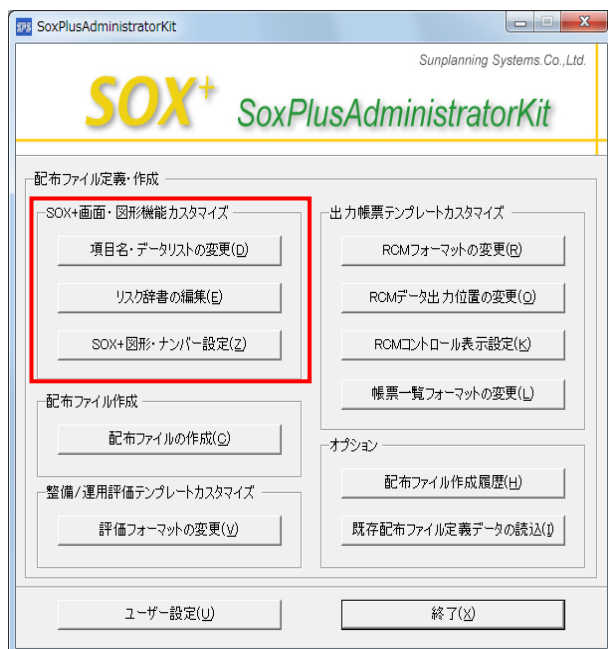
SOX+ 整備/運用評価オプションをご利用の場合、既存の配布ファイルを読み込むと以下のメッセージが表示される場合があります。

メッセージの内容やさらに詳しい操作については、『SOX+製品 導入ガイド』の『SOX+整備/運用評価オプション バージョンアップガイド』および『SOX+ 整備/運用評価オプション ユーザーズガイド』をご参照ください。



第 4 章 SOX+画面・図形機能カスタマイズ

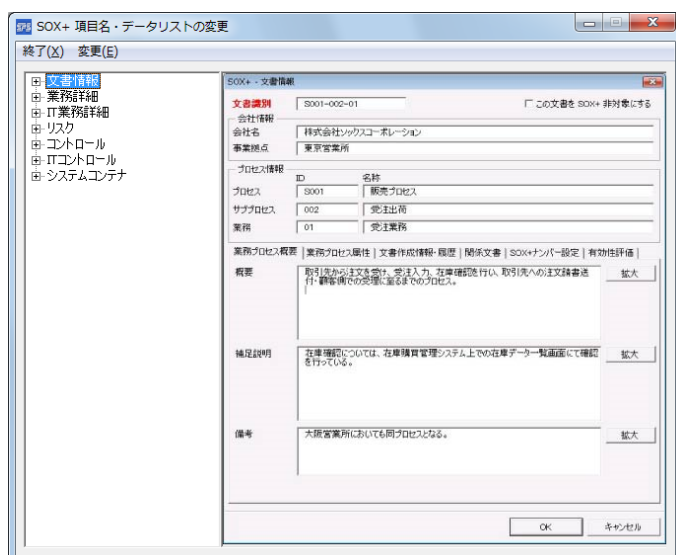
SOX+図形の登録画面の編集や機能設定、リスク辞書の登録などを編集します。



項目名・データリストの変更

SOX 図形+の登録画面をカスタマイズします。

SOX 図形+の登録画面の各項目名および各種データリスト（チェックボックス・ラジオボタン・ドロップダウンリスト）の変更、各欄の表示・非表示の切り替えなどを行います。



内容	説明
終了	項目名・データリストの変更ダイアログボックスを閉じます。それまでに変更した内容は全て保存されます。
変更	項目を選択して「変更」を選択すると、「データ定義」ダイアログボックスが開きます。

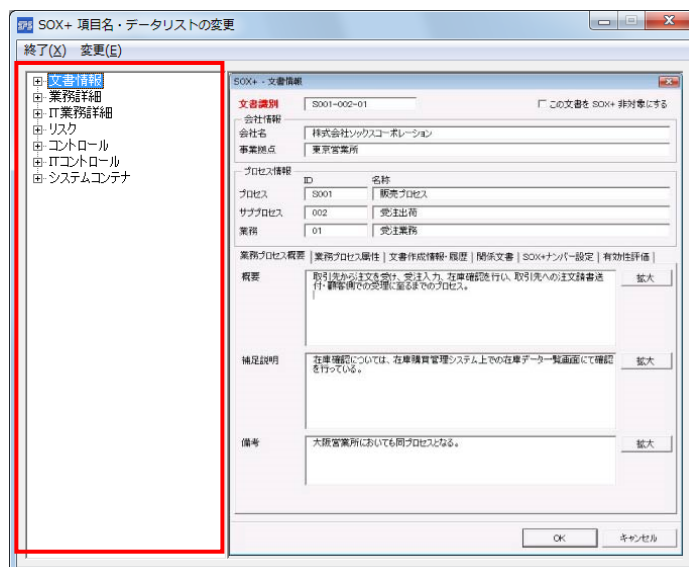
編集対象となるダイアログボックスは以下のとおりです。

- ・ 文書情報
- ・ 業務詳細
- ・ IT 業務詳細
- ・ リスク
- ・ コントロール
- ・ IT コントロール
- ・ システムコンテナ

変更箇所の選択方法

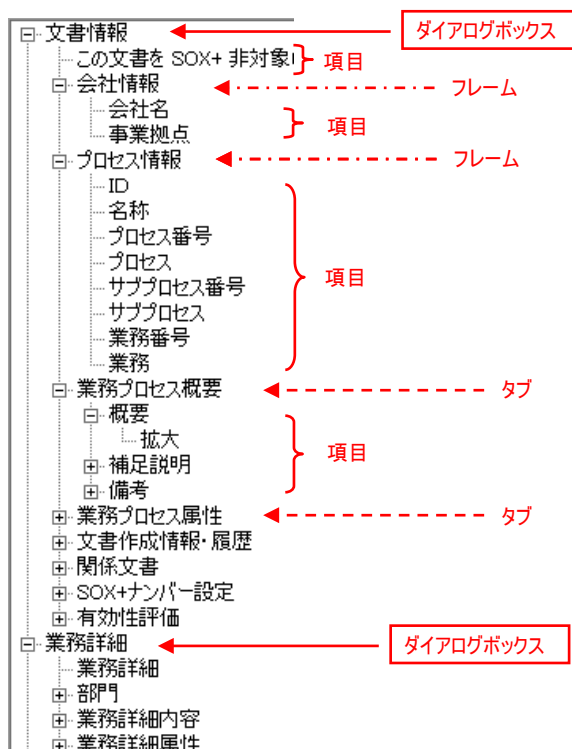
ダイアログボックスの切り替え

左側の対象ダイアログボックスを選択すると、右側のダイアログボックスの画像が選択対象のダイアログボックスに切り替わります。

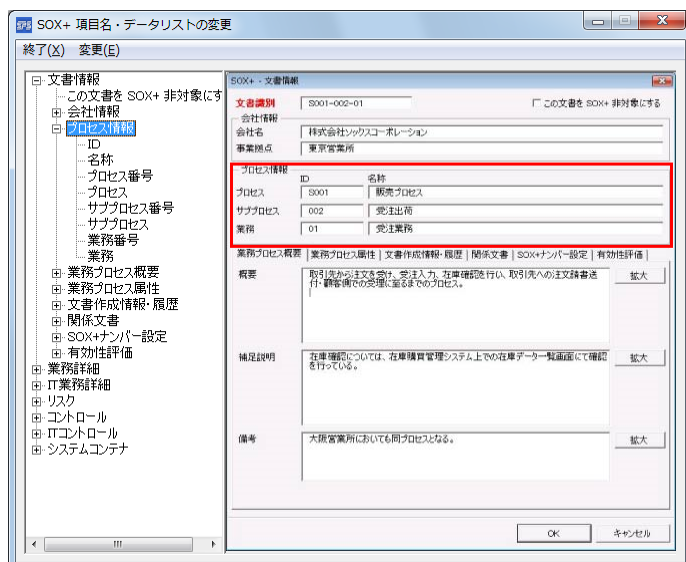


ツリー構造の見方

対象ダイアログボックスの「+」をクリックすると、詳細な項目箇所をツリー構造で表示します。



例) 文書情報の「プロセス情報」を選択すると、右側の赤枠を対象範囲とします。
「プロセス情報」のフレーム内にある項目については、さらに「+」をクリックして項目を展開することで、詳細項目を選択することができます。

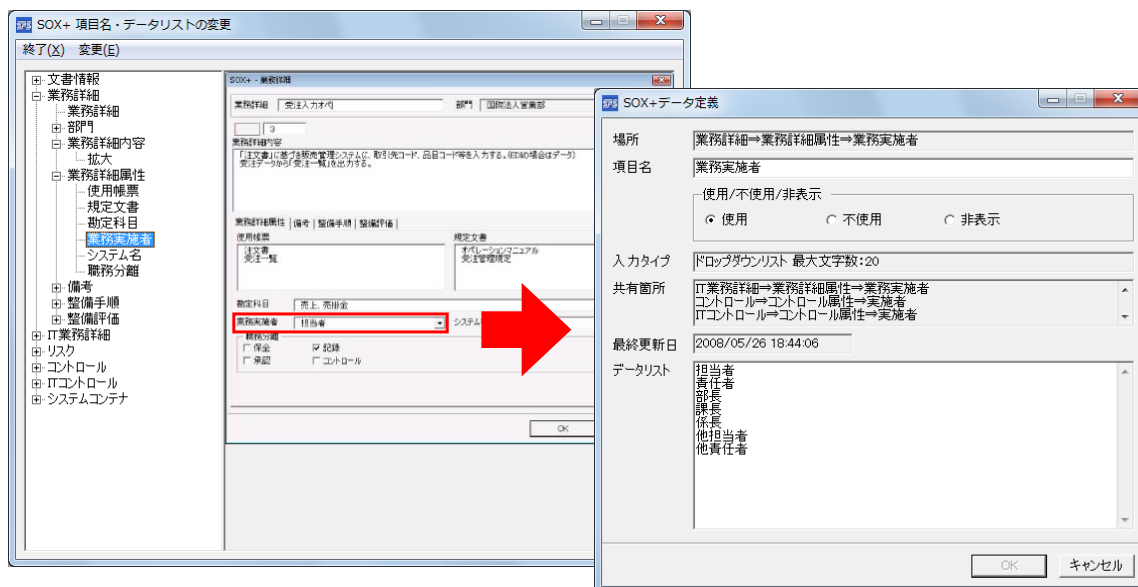


「整備/運用評価テンプレートカスタマイズ」(P66)にて、SOX+ 整備/運用評価オプションのライセンスキーが入力された後に当機能をご利用頂くと、SOX+ 整備/運用評価オプションで追加される画面（「整備手順」「整備評価」「CSA 手順」「CSA 評価」「運用手順」「運用評価」「不備対応」「最終評価」「有効性評価」）についても、項目の修正を行うことができますようになります。

※ 詳しくは『SOX+ 整備/運用評価オプション ユーザーズガイド』をご参照ください。

データ定義設定画面

修正対象の項目をダブルクリックもしくは項目を選択して「変更」メニューをクリックし、「SOX+データ定義」ダイアログボックスを開きます。

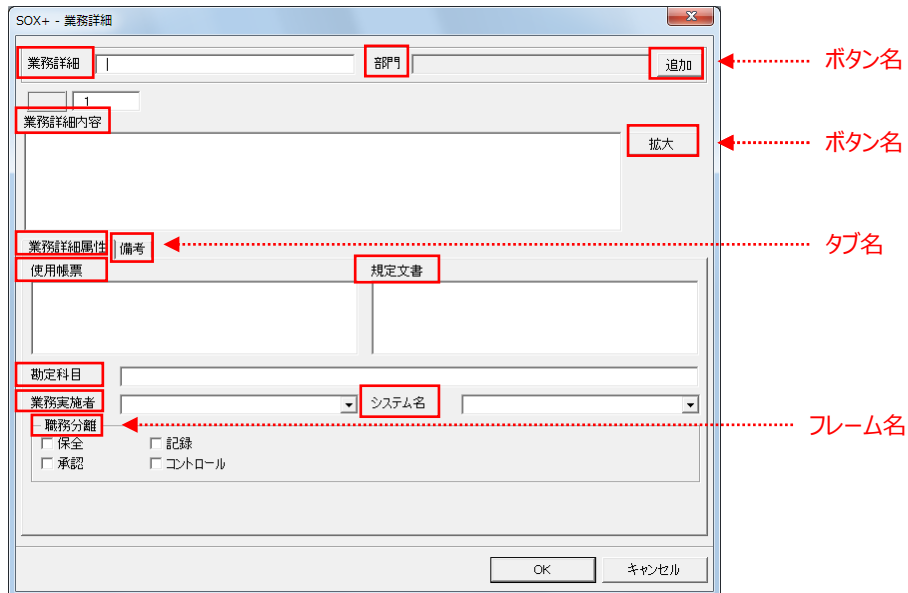


内容	説明
場所	この項目が属しているツリー構造ルートを表示します。
項目名	ダイアログボックスに表示される項目の名称です。自由に変更可能です。
使用 / 不使用 / 非表示	項目の使用 / 不使用 / 非表示を切り替えます。
入カタイプ	データリストのタイプと最大項目数、最大文字数を表示します。 データリストにはドロップダウンリスト、チェックボックス、ラジオボタンがあります。
共有箇所	同じデータリストを共有する、他の項目を表示します。
最終更新日	最後に変更を行った日付を表示します。
データリスト	項目の値に使用するデータリストを表示します。 項目の入カタイプが、ドロップダウンリスト、チェックボックス、ラジオボタンの場合に編集できます。

項目名

各 SOX+図形の項目名、フレーム名、タブ名、ボタン名を変更することができます。
項目名を変更する際は、以下のことに留意してください。

- ① 画面の表示幅からはみ出した部分は表示されません。
- ② RCMテンプレートの項目名称も同様に修正する必要があります。

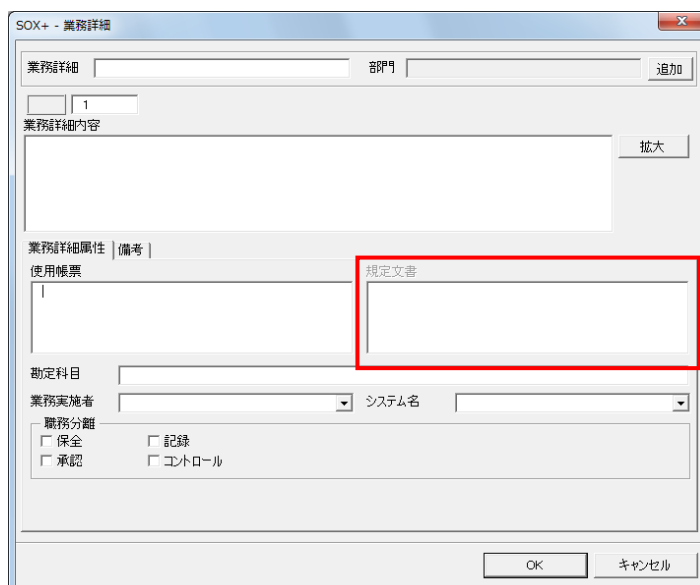


使用／不使用／非表示の切り替え

各項目を、使用／不使用／非表示に切り替えることができます。

- ・ 「不使用」： グレーアウトで表示し、入力・編集をできない状態にします。
- ・ 「非表示」： 項目名および入力欄を非表示にします。

例) 業務詳細の「規定文書」を「不使用」にした場合



例) 業務詳細の「規定文書」を「非表示」にした場合

The screenshot shows the 'SOX+ - 業務詳細' window. At the top, there are input fields for '業務詳細' and '部門', followed by a '追加' button. Below this is a '業務詳細内容' section with a large text area and a '拡大' button. Further down, there's a '業務詳細属性 | 備考 |' section with a '使用帳票' label and a text area. A red rectangle highlights a specific area within this section. Below that is a '勘定科目' field, followed by '業務実施者' and 'システム名' dropdown menus. At the bottom, there are checkboxes for '職務分離' (Security, Recording, Confirmation, Control) and 'OK' and 'キャンセル' buttons.

タブ名やフレーム名を不使用・非表示にすると含まれる項目全てが不使用・非表示となります。

例えば、コントロールの「性質」フレームを不使用にすると、その中に含まれる項目「種類」「程度」「統制レベル」「統制不備」が「使用」の設定であっても、「不使用」になります。

The screenshot shows the 'SOX+ - コントロール' window. It has a similar layout to the first window, with '業務詳細' and '部門' fields at the top. Below is a 'コントロール内容' section with a '拡大' button. The 'コントロール属性 | ターゲットリスク | テスト詳細 | ラベル | 備考 |' section contains a '規定文書' label and a text area. A red rectangle highlights the '性質' (Nature) frame, which includes sub-sections for '種類' (Type), '程度' (Degree), '統制レベル' (Control Level), and '統制不備' (Control Deficiency). Below this are checkboxes for '統制分類' (Control Classification) and 'アクセス制限' (Access Restriction). At the bottom, there are '取込' (Import), 'OK', and 'キャンセル' buttons.

不使用・非表示の項目でも、SOX+の「一括取込」機能で、RCM から取り込む際に該当セルにデータが入力されていれば、フロー内に取り込みます。また、項目を不使用・非表示にする前に入力された内容は、項目を不使用・非表示に設定した配布ファイルを取り込んだ後も、フローのファイル内に残ります。

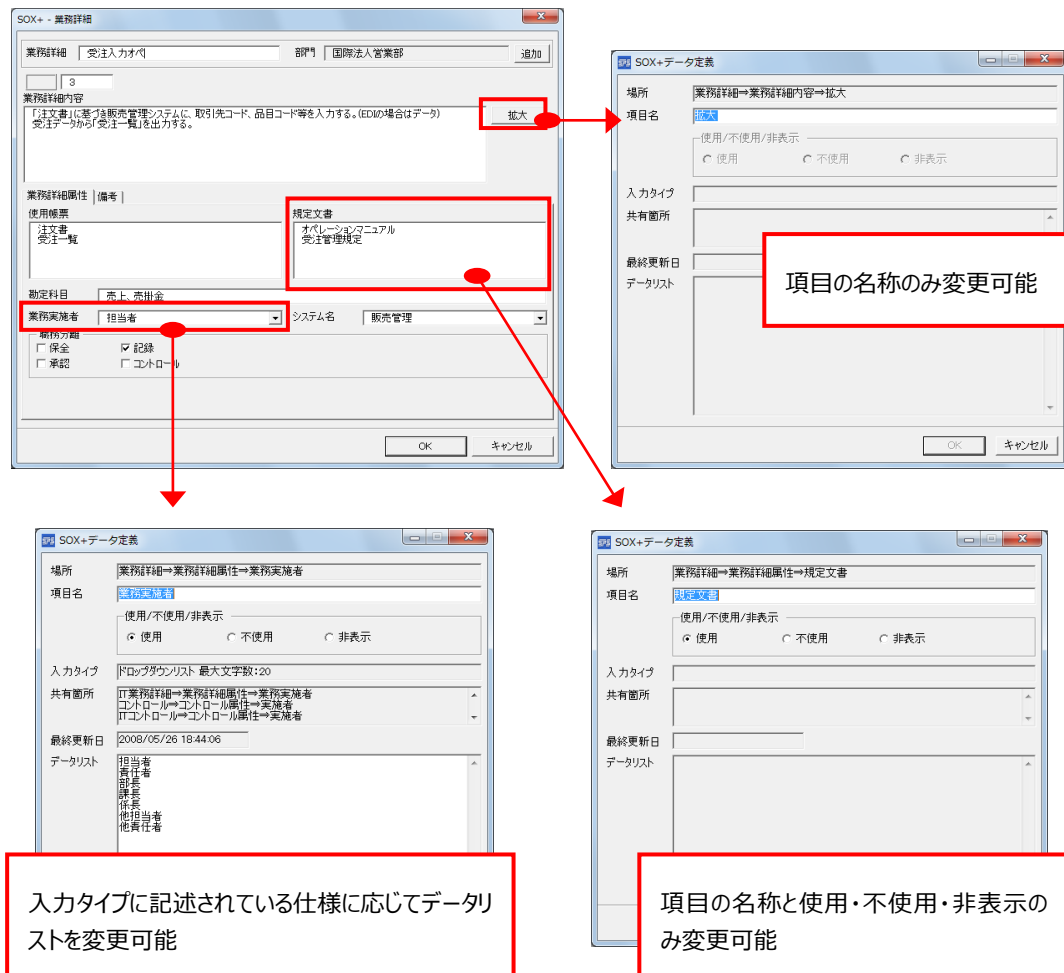
その場合、ダイアログボックスからの編集はできないのでご注意ください。

入カタイプとデータリスト

入カタイプとデータリストは、項目によって空欄の場合と記述のある場合があります。

記述がある場合は、入カタイプに記述された仕様に依じて、データリストを変更できます。

空欄の場合は、自由入力のテキスト項目、あるいはフレーム名・タブ名・ボタン名といった入力項目を持たないケースで、**項目の名称の変更と使用・不使用・非表示の切り替え**のみ変更することができます。しかし、ボタンなどの項目によっては、使用・不使用・非表示の切り替えができないものもあります。



1. ドロップダウンリスト

ポップアップ表示されるリストの中から一つ選択するのがドロップダウンリストです。

一行が一つのデータです。データリスト一行あたりの文字数は、入力タイプに記述された最大文字数までです。リストの行数に制限はありません。

初期設定値として表示したい値がある場合は 1 行目に登録し、空白（未選択）表示したい場合は、1 行目を空白行にします。「業務実施者」「システム名」に限っては、自由入力も可能なため、1 行目にデータが入っていても、初期設定値は空白になります。

2. チェックボックス

チェックボックスは複数選択できるデータを並べたものです。

一行に一つのデータが入力されています。入力タイプに記述された最大項目数および最大文字数で登録することができます。改行のみでも一つのデータとしてカウントされます。

例) アサーションは、横 2 列 14 項目分の登録が可能です。文字数は最大 14 文字までです。

チェックボックスタイプの場合、データリストの編集を行った場合は、RCM のヘッダー部の編集も必要となります。詳しくは P49 の RCM シートの「データ項目数の変更に伴う RCM ヘッダーの修正」の項をご参照ください。

3. ラジオボタン

ラジオボタンは複数の選択肢から 1 つだけチェックできます。

一行に一つのデータが入力されています。入力タイプに記述された最大項目数および最大文字数で登録することができます。改行のみでも一つのデータとしてカウントされます。

例) 性質の中の「種類」の場合、横 1 列に各 3 文字までの 3 項目の登録が可能です。

ラジオボタンタイプの場合、データリストの編集を行った場合は、RCM のヘッダー部の編集も必要となります。詳しくは P49 の RCM シートの「データ項目数の変更に伴う RCM ヘッダーの修正」の項をご参照ください。

4. 共有箇所

項目の中には複数の箇所でデータリストを共有しているものがあります。

例えば、業務詳細図形の「業務実施者」のデータリストは、IT 業務詳細図形の「業務実施者」、コントロール図形の「実施者」、IT コントロール図形の「実施者」と同じデータリストを共有しています。

文書情報ダイアログボックス

文書情報ダイアログボックスの中の編集可能項目のデータ定義を行います。

初期設定の項目名		入力タイプ	表示切替	備考
この文書をSOX+非対象にする		チェックボックス	△	「非表示」のみ不可
会社情報		－	○	
	会社名	テキストボックス	○	
	事業拠点	テキストボックス	○	
プロセス情報		－	○	
	ID	－	○	
	名称	－	○	
	プロセス番号	テキストボックス	○	
	プロセス	テキストボックス	○	
	サブプロセス番号	テキストボックス	○	
	サブプロセス	テキストボックス	○	
	業務番号	テキストボックス	○	
	業務	テキストボックス	○	
業務プロセス概要		－	○	
	概要	テキストボックス	○	
	拡大	ボタン	－	
	補足説明	テキストボックス	○	
	拡大	ボタン	－	
	備考	テキストボックス	○	
	拡大	ボタン	－	
業務プロセス属性		－	○	
	勘定科目	テキストボックス	○	
	システム名	テキストボックス	○	
	使用帳票	テキストボックス	○	
	規定文書	テキストボックス	○	
文書作成情報・履歴		－	○	

初期設定の項目名		入力タイプ	表示切替	備考
	作成者情報	－	○	
	部門	テキストボックス	○	
	責任者	テキストボックス	○	
	担当者	テキストボックス	○	
	作成履歴	－		
	バージョン	テキストボックス	○	
	ステータス	テキストボックス	○	
	作成者	テキストボックス	○	
	作成日	テキストボックス	○	
	最終更新者	テキストボックス	○	
	最終更新日	テキストボックス	○	
	最終承認者	テキストボックス	○	
	最終承認日	テキストボックス	○	
関係文書		－	○	
文書識別		－	－	
業務名称		－	－	
再取得		ボタン	－	
削除		ボタン	－	
SOX+ナンバー設定				
それぞれの基点ナンバーを指定してください。		－	－	

業務詳細ダイアログボックス

業務詳細ダイアログボックスの中の編集可能項目のデータ定義を行います。

初期設定の項目名		入力タイプ	表示切替	備考
業務詳細		－	－	
部門		－	－	
	追加	ボタン	－	

初期設定の項目名		入カタイプ	表示切替	備考
業務詳細内容		テキストボックス	○	
	拡大	ボタン	－	
業務詳細属性		－	○	
	使用帳票	テキストボックス	○	
	規定文書	テキストボックス	○	
	勘定科目	テキストボックス	○	
	業務実施者	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(20) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者 ・ 責任者 ・ 部長 ・ 課長 ・ 係長 ・ 他担当者 ・ 他責任者
	システム名	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(20) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> ・ 売掛金管理 ・ 販売管理 ・ 人事管理 ・ 仕入管理
	職務分離	チェックボックス	○	最大項目数(12) 最大文字数(6) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保全 ・ 承認 ・ 記録 ・ コントロール
備考		－	○	
	備考	テキストボックス	○	

IT業務詳細ダイアログボックス

業務詳細と IT 業務詳細の各データリストは、基本的に同じ内容を共有しています。

最初はIT業務詳細の「業務実施者」「規定文書」「職務分離」は不使用項目となっています。必要に応じて使用に切り替えてください。

リスクダイアログボックス

リスクダイアログボックスの中の編集可能項目のデータ定義を行います。

初期設定の項目名		入力タイプ	表示切替	備考
業務詳細		キャプション	－	
部門		キャプション	－	
分類番号		キャプション	－	
辞書		ボタン	－	初期設定では不使用
カテゴリー		ドロップダウンリスト	○	最大文字数(20) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> ・ J-SOX 法 ・ 会社法 ・ その他
コントロール確認		ボタン	－	
リスク内容		テキストボックス	○	
	拡大	ボタン	－	
リスク属性		－	○	
	インパクト	テキストボックス	○	
	統制目的	チェックボックス	○	最大項目数(7) 最大文字数(22) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告の信頼性 ・ 業務の有効性及び効率性 ・ 事業活動に関わる法令等の遵守 ・ 資産の保全
	アサーション	チェックボックス	○	最大項目数(14) 最大文字数(14) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実在性 ・ 網羅性 ・ 権利と義務の帰属 ・ 評価の妥当性 ・ 期間配分の適切性 ・ 表示の妥当性
	影響度	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(20) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> ・ 重大 ・ 軽微 ・ 許容可能

初期設定の項目名		入力タイプ	表示切替	備考
	影響範囲	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(20) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> ・ 連結会社間 ・ 単体会社内 ・ 複数プロセス間 ・ 単独プロセス内
	発生頻度	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(20) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> ・ 約 1 ヶ月 ・ 約 3 ヶ月 ・ 約 6 ヶ月
	損失想定	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(20) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 0 0 万円未満 ・ 1 0 0 0 万円未満 ・ 3 0 0 0 万円未満 ・ 5 0 0 0 万円未満 ・ 1 億円未満 ・ 3 億円未満 ・ 5 億円未満 ・ 1 0 億円未満 ・ 1 0 億円超
ラベル・備考		－	○	
	ラベル	テキストボックス	○	
	備考	テキストボックス	○	

コントロールダイアログボックス

コントロールダイアログボックスの中の編集可能項目のデータ定義を行います。

初期設定の項目名		入力タイプ	表示切替	備考
業務詳細		キャプション	－	
部門		キャプション	－	
統制タイプ		ドロップダウンリスト	○	最大文字数(20) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> ・ マニュアル統制 ・ IT 依存統制 ・ IT 統制
コントロール内容		テキストボックス	○	
	拡大	ボタン	－	
コントロール属性		キャプション	○	
	証憑	テキストボックス	○	
	規定文書	テキストボックス	○	
	実施者	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(20) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者 ・ 責任者 ・ 部長 ・ 課長 ・ 係長 ・ 他担当者 ・ 他責任者
	システム名	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(20) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> ・ 売掛金管理 ・ 販売管理 ・ 人事管理 ・ 仕入管理
	統制頻度	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(20) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> ・ 随時 ・ 日毎 ・ 週毎 ・ 半月毎 ・ 月毎 ・ 四半期毎 ・ 半期毎

初期設定の項目名		入力タイプ	表示切替	備考
				<ul style="list-style-type: none"> ・ 随時（年 1 回程度） ・ 随時（年 2～4 回程度） ・ 随時（年 5～9 回程度） ・ 随時（年 10～49 回程度） ・ 随時（年 50～200 回程度） ・ 随時（年 200 回以上） ・ 年毎 ・ 1 日複数
	随時の発生頻度	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(20) 初期設定値（非表示） <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日 ・ 毎週 ・ 毎月 ・ 3ヶ月毎 ・ 6ヶ月毎
	統制分類	チェックボックス	○	最大項目数(16) 最大文字数(14) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> ・ 承認・決裁 ・ 承認者等のレビュー ・ 照合 ・ 職務の分離による内部統制 ・ 規定・マニュアル整備 ・ 予算比等の指標チェック ・ エラー・例外の抽出 ・ システム上の統制 ・ アクセス制限
	性質	キャプション	○	
	種類	ラジオボタン	○	最大項目数(3) 最大文字数(3) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> ・ 予防的 ・ 発見的
	程度	ラジオボタン	○	最大項目数(3) 最大文字数(3) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一次的 ・ 二次的
	統制レベル	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(20) 初期設定値 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般コントロール ・ キーコントロール
	統制不備	キャプション	○	

初期設定の項目名			入力タイプ	表示切替	備考
ターゲットリスク			キャプション	○	
			追加	－	
			削除	－	
			ターゲットリスク確認	－	
			業務	－	
			リスク	－	
			リスク情報	－	
			アサーション	○	最大項目数(14) 最大文字数(14) 初期設定値（不使用） <ul style="list-style-type: none"> ・ 実在性 ・ 網羅性 ・ 権利と義務の帰属 ・ 評価の妥当性 ・ 期間配分の適切性 ・ 表示の妥当性
			性質	○	
			種類	○	最大項目数(3) 最大文字数(3) 初期設定値（不使用） <ul style="list-style-type: none"> ・ 予防的 ・ 発見的
			程度	○	最大項目数(3) 最大文字数(3) 初期設定値（不使用） <ul style="list-style-type: none"> ・ 一次的 ・ 二次的
テスト詳細			統制レベル	○	最大文字数(20) 初期設定値（不使用） <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般コントロール ・ キーコントロール
			統制不備	○	初期設定値（不使用）
			キャプション	○	
			キャプション	○	
			方法	○	
			実施者	○	

初期設定の項目名			入カタイプ [°]	表示切替	備考	
		周期	テキストボックス	○		
ラベル・備考			キャプション	○		
			ラベル	テキストボックス	○	
			備考	テキストボックス	○	
取込			ボタン	－		

ITコントロールダイアログボックス

コントロールと IT コントロールのリストデータは、基本的に同じ内容を共有していますが、以下の統制タイプだけ、データリストが異なります。

初期設定の名	入力タイプ	表示切替	備考
統制タイプ	ドロップダウンリスト	○	最大文字数(20) 初期設定値 ・ IT 統制

初期設定値では IT コントロールの「業務実施者」「規定文書」は不使用項目となっています。必要に応じて使用に切り替えてご利用ください。

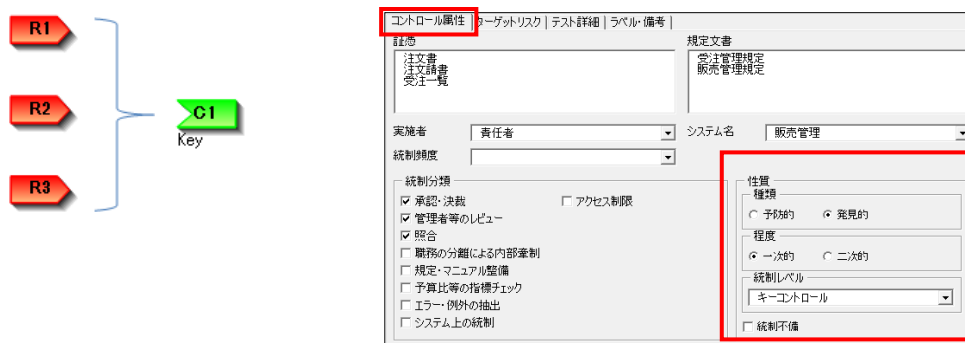
コントロール属性とターゲットリスク属性の違いについて

リスクとコントロールの関係における属性情報は、以下の2つの考え方による設定が可能です。

1. コントロール属性

コントロールを主体にした考え方です。インストール直後はこの設定になっています。

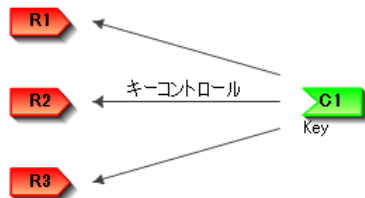
例えば、複数のリスクを1つのコントロールで統制していた場合でも、すべてのターゲットリスクに対してコントロールの属性は一意です。



2. ターゲットリスク属性

対象となるリスクを主体とした考え方です。AdministratorKit で設定します。

例えば、複数のリスクを1つのコントロールで統制していた場合に、ターゲットリスクごとにコントロールの属性を設定することができます。



R1

コントロール属性		ターゲットリスク	テスト詳細	ラベル・備考
1/3		追加	削除	ターゲットリスクの確認
業務	S001-002-01 受注業務			
リスク	R1 架空の受注を受けるリスク			
リスク情報	業務詳細→【3】受注入力カバ 架空の受注を受けるリスク			
アサーション		性質		
<input type="checkbox"/> 実在性		<input type="radio"/> 予防的 <input type="radio"/> 発見的		
<input type="checkbox"/> 網羅性		<input type="radio"/> 一次的 <input type="radio"/> 二次的		
<input type="checkbox"/> 権利と義務の帰属		統制レベル		
<input type="checkbox"/> 評価の妥当性		<input type="checkbox"/> 統制不備		
<input type="checkbox"/> 期間区分の適切性				
<input type="checkbox"/> 表示の妥当性				

R2

コントロール属性		ターゲットリスク	テスト詳細	ラベル・備考
1/3		追加	削除	ターゲットリスクの確認
業務	S001-002-01 受注業務			
リスク	R2 注文書データがエラーで受領できず、売上機会を喪失するリスク			
リスク情報	業務詳細→【3】受注入力カバ 注文書データがエラーで受領できず、売上機会を喪失するリスク			
アサーション		性質		
<input type="checkbox"/> 実在性		<input type="radio"/> 予防的 <input type="radio"/> 発見的		
<input type="checkbox"/> 網羅性		<input type="radio"/> 一次的 <input type="radio"/> 二次的		
<input type="checkbox"/> 権利と義務の帰属		統制レベル		
<input type="checkbox"/> 評価の妥当性		<input type="checkbox"/> 統制不備		
<input type="checkbox"/> 期間区分の適切性				
<input type="checkbox"/> 表示の妥当性				

R3

コントロール属性		ターゲットリスク	テスト詳細	ラベル・備考
3/3		追加	削除	ターゲットリスクの確認
業務	S001-002-01 受注業務			
リスク	R3 受注入力を読み取りにより「注文書」とは異なる受注・出荷が行われるリスク			
リスク情報	業務詳細→【3】受注入力カバ 受注入力を読み取りにより「注文書」とは異なる受注・出荷が行われるリスク			
アサーション		性質		
<input type="checkbox"/> 実在性		<input type="radio"/> 予防的 <input type="radio"/> 発見的		
<input type="checkbox"/> 網羅性		<input type="radio"/> 一次的 <input type="radio"/> 二次的		
<input type="checkbox"/> 権利と義務の帰属		統制レベル		
<input type="checkbox"/> 評価の妥当性		<input type="checkbox"/> 統制不備		
<input type="checkbox"/> 表示の妥当性				
<input type="checkbox"/> 期間区分の適切性				

「ターゲットリスク」タブの「アサーション」を「使用」にすると、ターゲットリスクに定義されているアサーションは赤字で表示されます。このうちコントロールが統制しているアサーションがいずれであるかを特定することができます。

3. ターゲットリスク属性を使用する場合の設定方法

ターゲットリスク属性を使用される場合は、以下の操作が必要となります。

- ① 「ターゲットリスク」タブの属性項目は「不使用」となっています。必要に応じて「使用」に変更してください。
- ② コントロール属性タブの同種の項目（種類や程度、統制レベル、統制不備など）は不要となりますので、「不使用」または「非表示」にしてください。

※項目を「不使用」または「非表示」に変更した場合、既に入力済みのデータは消えずにそのまま残ります。切り替えの際は、コントロール属性タブの「統制レベル」に「キーコントロール」を指定している既存のコントロールがないかどうか注意してください。「不使用」または「非表示」の状態では指定を変更できません。

- ③ 上記設定に伴ってRCMシートの列項目を表示または非表示で使用する列項目を整えます。

RCM シートの列項目一覧については P86 をご覧ください。

システムコンテナ内で設定できる「システム名」についてデータ定義を行います。

第4章 SOX+画面・図形機能カスタマイズ 37

リスク辞書編集機能

リスク辞書は、Excel ファイルで管理されています。

「リスク辞書の編集」ボタンよりリスク辞書（RiskDictionary.xlsx）を開き、リスクの登録と編集を行います。



※マクロを有効にして利用します。マクロが有効になっていない場合は、「入力チェック」ボタンが使用できません。

リスク辞書（RiskDictionary.xlsx）の編集・保存

タイトル（見出し）の変更

リスク辞書の第 1～3 行は、見出し行になっています。見出しの内容は自由に変更できますが、原則として対応する項目名・データリストに表示を合わせておきます。特に「項目名・データリストの変更」画面で項目名・データリストを編集した場合は、必ず変更しておきます。

リスク属性									
統制目的					アサーション				
報告の信頼性	業務活動の有効性	事業活動の透明性	資産の保全	実在性	権利と義務の網羅性	評価の妥当性	期間配分の適切性	表示の妥当性	影響度
該当する場合は、マル(○)を記入して下さい									
○	○				○				「デ
○				○	○				受容
									重大

表示非表示の切り替え

辞書として必要な項目（列）は網羅されています。使用しない項目（列）は「非表示」に、既に非表示になっている列を使用したい場合は、「再表示」にして利用します。列の追加と削除は行わないでください。

辞書データの入力

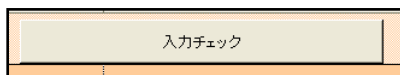
項目欄の入力指示に従って編集します。

登録するリスク数に制限はありません。

初期設定の項目名	説明
分類番号	必須入力です。半角英数字5文字までのコードを割り当てます。
カテゴリー	登録した「データリスト」の値を記入します。
リスク内容	自由入力です。(最大文字数：2000)
インパクト	自由入力です。(最大文字数：1000)
統制目的	該当する項目に「○」を記入します。
アサーション	該当する項目に「○」を記入します。
影響度	登録した「データリスト」の値を記入します。
発生頻度	登録した「データリスト」の値を記入します。
影響範囲	登録した「データリスト」の値を記入します。
損失想定	登録した「データリスト」の値を記入します。
ラベル	自由入力です。(最大文字数：510)
備考	自由入力です。(最大文字数：2048)

入力チェック

入力を終わったら、「入力チェック」ボタンをクリックします。入力内容が制限に沿っているかどうか確認します。エラーがあったセルには色が付きまますので、内容を修正してください。



保存

全ての追加・編集を終わったら、上書き保存して Excel を閉じます。編集済みのリスク辞書は、配布ファイルを作成したときに一緒に保存されます。

リスク辞書機能を使用できるように設定する

リスク図形の「辞書」ボタンは、初期設定で「不使用」に設定されています。

「項目名・データリストの変更」で、「使用」に切り替えてください。(P 18 参照)

SOX+図形・ナンバー設定

ここでは、SOX+で利用する以下の機能を設定することができます。

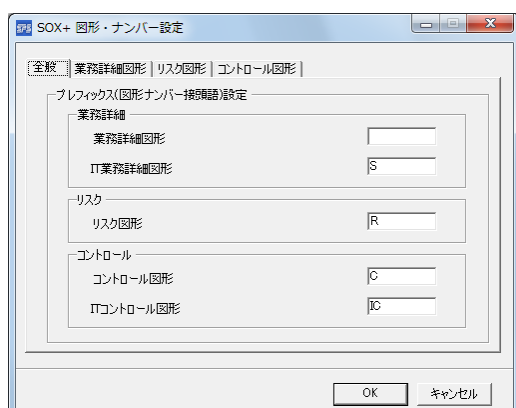
1. SOX+図形の識別用プレフィックス文字の変更
2. メモ登録機能の設定
3. 図形ナンバーのゼロ埋め表示の設定
4. リスク図形の番号表記の切替
5. キーコントロール文字の表示・非表示の切替

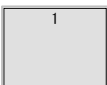
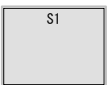



新しい設定を既存の業務フローチャートに適用する場合は、業務フローチャートを開いて、SOX+メニューの「表示情報の更新」機能を使用して図形の表示を更新します。

プレフィックス（図形ナンバー接頭語）設定

SOX+図形には、それぞれのナンバーの前に、種類ごとにプレフィックス文字（接頭語）が設定されています。

プレフィックス文字は、3文字までの半角アルファベットで自由に変更できます。ただし、違う種類の図形に同一のプレフィックス文字を使用することはできません。



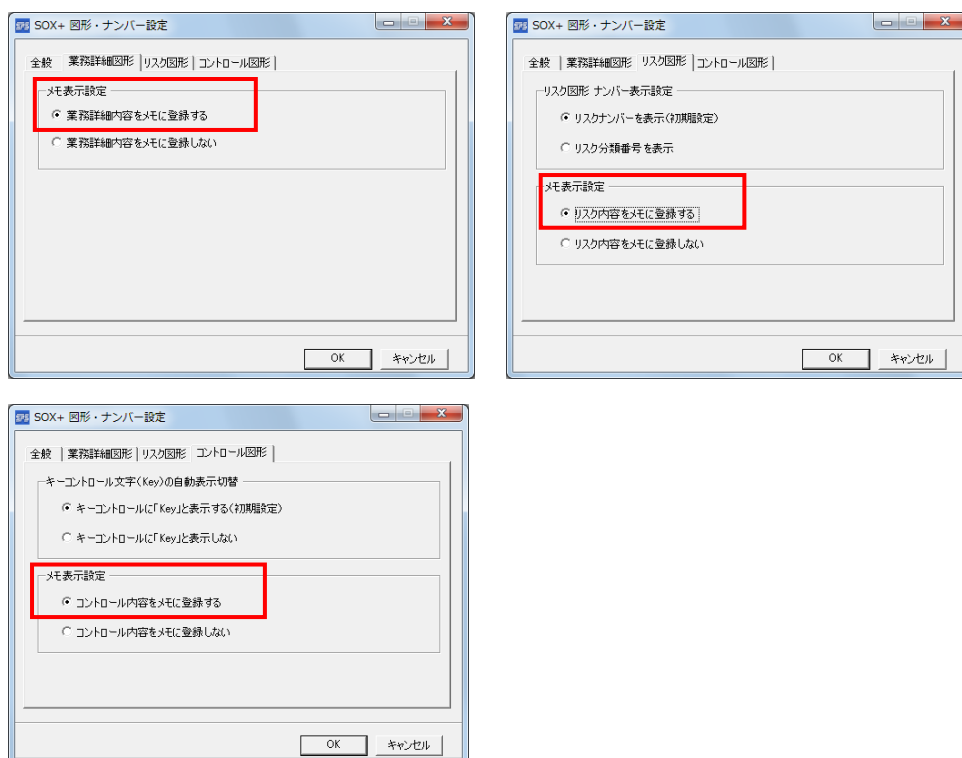
図形サンプル				
業務詳細	業務詳細		IT業務詳細	
リスク				
コントロール	コントロール		ITコントロール	

標準では、業務詳細図形がプレフィックス無し、IT 業務詳細図形が「S」、リスク図形が「R」、コントロール図形が「C」、IT コントロール図形が「IC」となっています。

メモ表示設定

業務詳細、リスク、コントロールの図形に入力した「内容」を「メモ」に自動登録することができます。「メモ」に登録された内容は、それぞれ該当の図形上にカーソルを合わせると「内容」がポップアップ表示されます。これにより、ダイアログ表示機能を持たない他ファイル形式に出力された図表（WEB ページ出力、PDF 出力、WEB Central）においても、登録された「内容」をポップアップ表示で確認できるようになります。

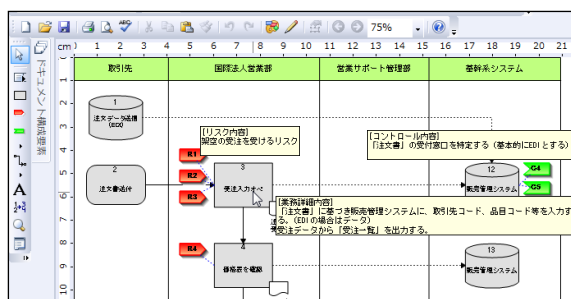
メモ表示機能を使用するには、「……内容をメモに登録する」を選択します。



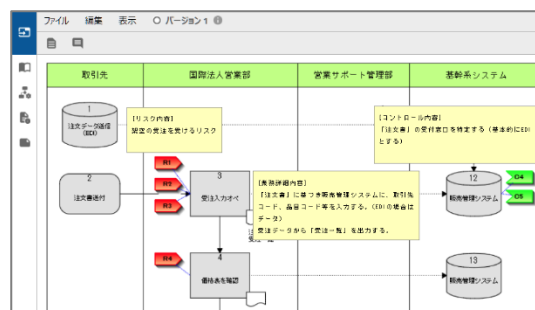
※iGrafx 上では、メモ表示をオフにすることもできます。

「表示」メニューの「メモ ツールチップ」をクリックすると表示、非表示が切り替わります。

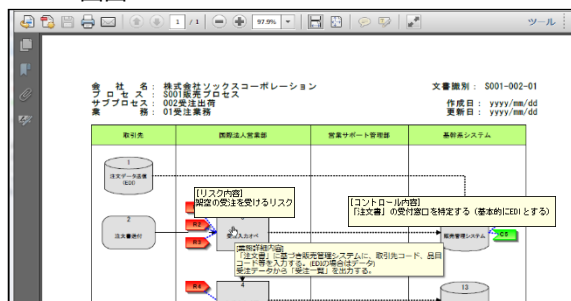
iGrafx 画面



■ WEB 画面



■ PDF 画面



図形ナンバーゼロ埋め表示設定

業務詳細図形、リスク図形、コントロール図形のナンバーをゼロ埋めして表示することができます。

ナンバーは 2 桁表示から 4 桁表示の間で選択できます。

例) ゼロ埋めして 2 桁で表示する場合

The figure shows three examples of SOX+ forms where numbers are zero-padded to 2 digits:

- SOX+ - 業務詳細**: A grey box labeled "01" is shown next to the form. The form has a "業務詳細" field with a cursor, and a "業務詳細内容" section below it. A small box next to the "業務詳細" field contains the value "01".
- SOX+ - リスク**: A red arrow labeled "R01" points to the form. The form has a "業務詳細" field, a "リスク内容" section, and a "分類番号" field. A small box next to the "業務詳細" field contains the value "R 01".
- SOX+ - コントロール**: A green arrow labeled "C01" points to the form. The form has a "業務詳細" field, a "コントロール内容" section, and a small box next to the "業務詳細" field containing the value "C 01".

各図形のナンバーをゼロ埋めで表示させる場合「ナンバーをゼロ埋め表示する」にチェックを入れ、表示させたい桁数を入力します。（2 から 4 の数字）

The screenshot shows the "SOX+ 図形・ナンバー設定" dialog box. It has four tabs: "全般", "業務詳細図形", "リスク図形", and "コントロール図形". The "ナンバー表示設定" tab is selected. Under this tab, there are three sections, each with a checked checkbox "ナンバーをゼロ埋め表示する" and a "桁数" (Number of digits) input field set to "2":

- 業務詳細図形**: ☒ ナンバーをゼロ埋め表示する, 桁数: 2
- リスク図形**: ☒ ナンバーをゼロ埋め表示する, 桁数: 2
- コントロール図形**: ☒ ナンバーをゼロ埋め表示する, 桁数: 2

At the bottom right, there are "OK" and "キャンセル" buttons.

設定されたゼロ埋め表示のナンバーは、出力する帳票にも反映されます。

リスク図形 ナンバー表示設定

リスクナンバーの代わりに、リスク分類番号を表示することができます。

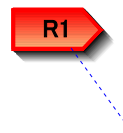
例) リスクが下図の内容の場合

R	1	分類番号	A-10	辞書
リスク内容				
架空の受注を受けるリスク				

「リスクナンバーを表示（初期設定）」

リスク図形には下右図のようにリスクナンバーが表示されます。

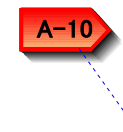
全般	業務詳細図形	リスク図形	コントロール図形
リスク図形 ナンバー表示設定			
<input checked="" type="radio"/> リスクナンバーを表示(初期設定)			
<input type="radio"/> リスク分類番号を表示			



「リスク分類番号を表示」

リスク図形には下右図のようにリスク分類番号が表示されます。

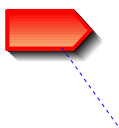
全般	業務詳細図形	リスク図形	コントロール図形
リスク図形 ナンバー表示設定			
<input type="radio"/> リスクナンバーを表示(初期設定)			
<input checked="" type="radio"/> リスク分類番号を表示			



番号なしのリスク

リスク分類番号の表示を設定している場合、配置直後のリスク図形はリスク分類番号が未入力のため、空白のまま配置されます。

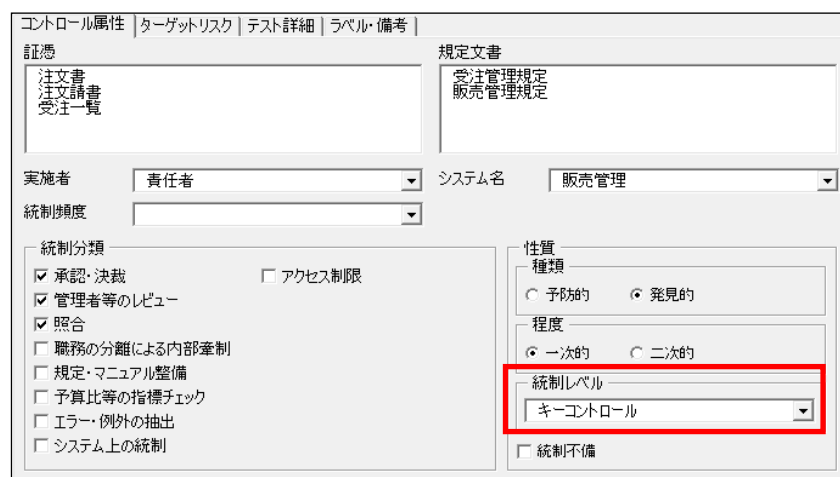
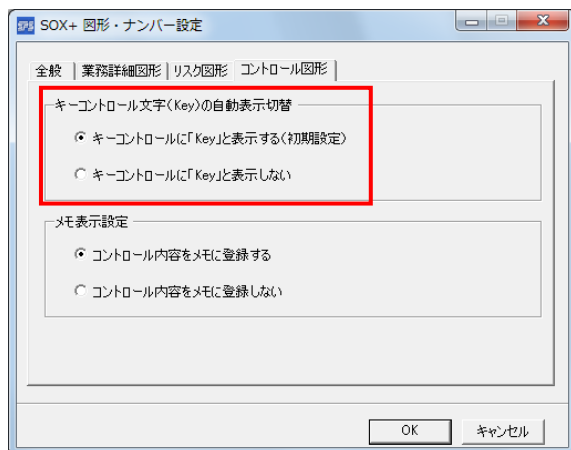
リスクダイアログボックスでリスク分類番号を手入力するか、リスク辞書からリスクを選択すると、登録されたリスク分類番号が表示されます。



キーコントロール文字（Key）の自動表示切替

初期設定では、コントロール図形の「統制レベル」で「キーコントロール」を選択すると、コントロール図形の左下に「Key」と表示されます。

「Key」の文字を業務フローチャート上に表示したくない場合、「キーコントロールに「Key」を表示しない」を使用します。

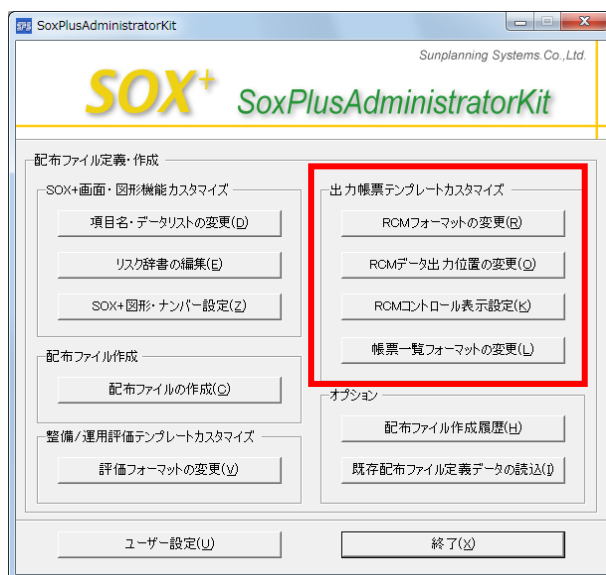


旧バージョンの配布ファイルを読み込んだ場合

この機能がないバージョンの配布ファイルを読み込んだ場合、「キーコントロールに「Key」を表示しない」にチェックが切り替わりま
すので、この機能が必要な場合は「キーコントロールに「Key」と表示する」にチェックをしてください

第5章 出力帳票テンプレートカスタマイズ

RCM（リスクコントロールマトリクス）テンプレート及び帳票一覧テンプレートの書式や設定をカスタマイズします。
「RCM データ出力位置の変更」を使用する場合は、「RCM フォーマットの変更」前に実施してください。
※「RCM データ出力位置の変更」P54 参照

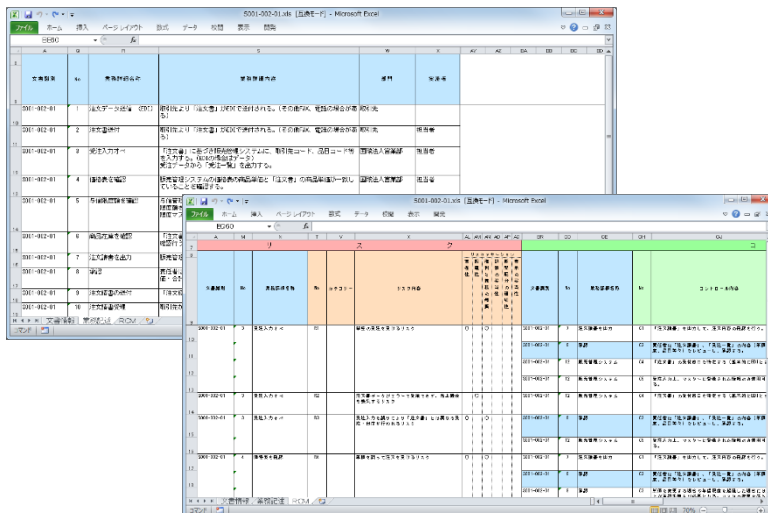
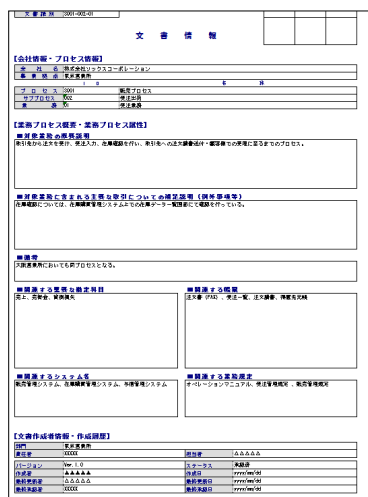


RCMファイルの構成

RCM ファイルは、「文書情報」、「業務記述」、「RCM」の 3 枚のシート（SOX+ 整備/運用評価オプションご利用ユーザーでは*「RC 関連表」を合わせて 4 シート）で構成されています。

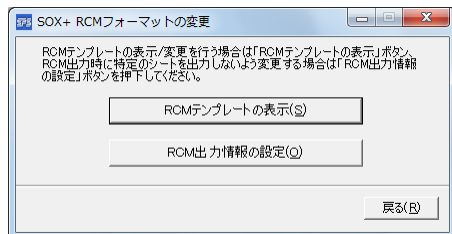
シート名は変更できません。

- ・ 文書情報シート : 表紙になるシートです。
- ・ 業務記述シート : 業務詳細を一覧で表示しているシートです。
- ・ RCM シート : リスクとコントロールの関係を表示しているシートです。



RCMフォーマットの変更

RCM テンプレート (SOxMatrix.xlsx) を表示します。RCM 出力時に特定のシートを表示しないようにする場合は、「RCM 出力情報の設定」で制限することができます。



RCMテンプレートの表示

RCM テンプレート (文書情報シート、業務記述シート、RCM シート) を編集します。ここでは主に列項目の表示、非表示やデータ行の書式や表示形式の変更を行います。RCM テンプレートに必要な列項目はすべて用意しています。必要に合わせて表示、非表示でフォーマットを整えてください。

列の追加と削除は行わないでください。

初期設定時に非表示になっている列項目はグレーの色が付いています。

【初期設定の列項目】

1	17	18	19	23	24
文書識別	No	業務詳細名称	業務詳細内容	部門	実施者
XXXX999-999-99	ZZZ9	-----1 -----2	-----1-----2-----3----- -----4-----5-----6----- -----7-----8-----9----- -----0----- -----1-----2-----3----- -----4-----5-----6----- -----7-----8-----9----- -----0-----	-----1 -----2	-----1

「業務記述」シート

1	13	14	20	22	24	28	29	40	41	42	43	70	82	83	86	88	89	90
文書識別	No	業務詳細名称	No	カテゴリ	リスク内容	リスク発生可能性	リスク検出可能性	リスク評価	リスク許容性	リスク回避可能性	リスク軽減可能性	文書識別	No	業務詳細名称	No	コントロール内容	検出タイプ	検出
XXXX999-999-99	ZZZ9	-----1 -----2	ZZZ9	-----1 -----2 -----3	-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9-----0-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9-----0-----	0	0	0	0	0	0	XXXX999-999-99	ZZZ9	-----1 -----2	ZZZ9	-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9-----0-----1-----2-----3-----4-----5-----6-----7-----8-----9-----0-----	-----1	-----

「RCM」シート

【すべての列項目を表示】

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
文書識別	会社名	事業拠点	ID	プロセス名称	ID	サブプロセス名称	ID	業務名称	勘定科目	規定
XXX999-999-99	-----1 -----2	-----1 -----2	XXX999	-----1 -----2	999	-----1 -----2	99	-----1 -----2	①-----1 ②-----2 ③-----1 ④-----2 ⑤-----1	①-----1 ②-----2 ③-----1 ④-----2 ⑤-----1

「業務記述」シート

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
文書識別	会社名	事業拠点	ID	プロセス名称	ID	サブプロセス名称	ID	業務名称	勘定科目	フェーズ	業務評価 ObjectID	No	業務評価 業務名称	業務評価 勘定科目
XXX999-999-99	-----1 -----2	-----1 -----2	XXX999	-----1 -----2	999	-----1 -----2	99	-----1 -----2	①-----1 ②-----2 ③-----1 ④-----2 ⑤-----1	-----1 -----2	ZZZ20	ZZ20	-----1 -----2	①-----1 ②-----2 ③-----1 ④-----2 ⑤-----1

「RCM」シート

図形に登録した値とExcelに出力される値の関係

SOX+の「RCM 出力」を実行すると、SOX+図形に入力した各データは、RCM テンプレートの決まった列にそれぞれ出力されます。

例えば、リスク図形の「アサーション」にチェックした内容は、一つ目のチェックボックスはRCM シートの第 38（AL）列に、二つ目のチェックボックスは第 39（AM）列に…というように、第 51（AY）列まで順に出力されます。

そのため、RCM テンプレートを編集する際は、**見出しと出力内容がずれないように注意してください。**

（列の削除・挿入は行わないでください。）

アサーション

☒ 実在性(38-AL)

☐ (45-AS)

☐ 網羅性(39-AM)

☐ (46-AT)

☒ 権利と義務の帰属(40-AN)

☐ (47-AU)

☐ 評価の妥当性(41-AO)

☐ (48-AV)

☐ 期間配分の適切性(42-AP)

☐ (49-AW)

☐ 表示の妥当性(43-AQ)

☐ (50-AX)

☐ (44-AR)

☐ (51-AY)

37	38	39	40	41	42
リスクアサーション					
実在性	網羅性	権利と義務の帰属	評価の妥当性	期間配分の適切性	表示の妥当性
	○		○		

前の列を削除した結果、見出しがずれています。

文書情報シートの変更

見出し文字、セルの書式設定（枠線・フォント設定含）や背景色を変更できます。

1	2	3
1	文書識別	S001-002-01
2		
3		
4		
5	【会社情報・プロセス情報】	
7	会社名	株式会社リックスコーポレー
8	事業拠点	東京営業所
9		
10	プロセス	S001
11	サブプロセス	002
12	業務	01
13		
14	【業務プロセス概要・業務プロセス属	

不要な項目は、行を非表示にして隠すか、フォントの色を背景と同色にします。

データが出力されるセル以外は、自由に記述可能です。

データが出力されるセルも、フォントや罫線などの書式変更は可能です。

業務記述シート・RCMシート・*RC関連表シートの変更

① ヘッダー部

見出しです。内容も書式も自由に変更できます。非表示にすることもできます。

1	17	18	42	45
文書識別	No	業務詳細名称	No	リスク内容
XXX999-999-99	ZZZ9	-----+-----1 -----+-----2	RZZZ9	-----+-----1-----+-----2-----+ -----3-----+-----4-----+-----5

①

②

② データ部

セルの書式設定（フォント設定含）や背景色を変更できます。最初から入っている文字は幅合わせ用です。

注意点は以下の2点です。

- ・ 行の高さを変更した場合は、最後に Excel の「書式」メニューの「行」の「自動調整」で高さが自動で変わるようにしておいてください。
- ・ 「セルの書式設定」の「表示形式」は「標準」にしておいてください。
「文字列」は1セルに256文字以上の文字が出力されると正常に表示されません。

データ項目数の変更に伴うRCMヘッダーの修正

「項目名・データリストの変更」でチェックボックスタイプやラジオボタンタイプのデータリストを変更していた場合は、必要に応じ、業務記述・RCM・*RC 関連表シートの見出しの変更、表示列の表示・非表示の定義を変更する必要があります。

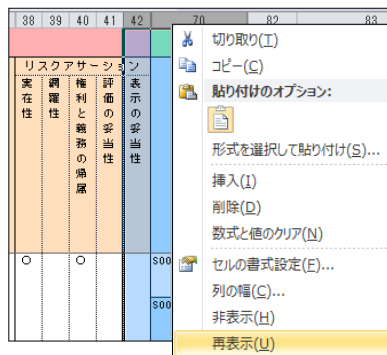
例) 5 項目のアサーションに「期間帰属の適正」を追加し 6 項目に変更した場合

上記変更の結果、リスクダイアログボックスは以下になります。

チェックボックスの項目数変更に伴い、RCM シートの修正を行います。

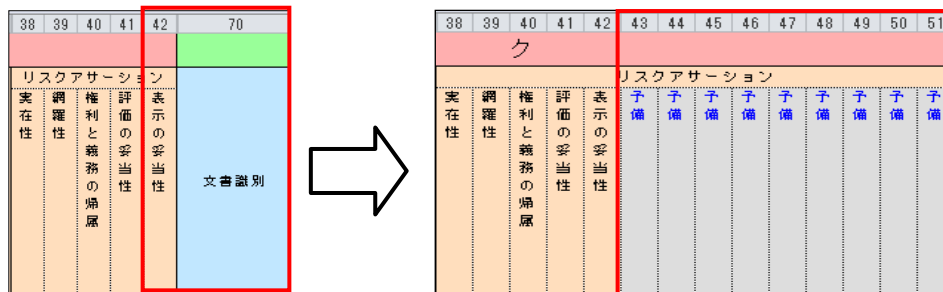
24	38	39	40	41	42	70	82	83
ク	リスクアサーション 実在性	網羅性	権利と義務の帰属	評価の妥当性	表示の妥当性	文書識別	No	業務証憑名称
架空の受注を受けるリスク	○	○				S001-002-01	7	注文請書 出力
						S001-002-01	8	承認
						S001-002-01	12	販売管理システム
						S001-002-01	12	販売管理システム
注文書データがエラーで受領できず、売上機会を喪失するリスク	○					S001-002-01	12	販売管理システム

アサーションには、項目追加用に予備の列が用意されています。アサーションの後ろの列を再表示させるため、非表示の列を挟むようにして列をまとめて選択します。

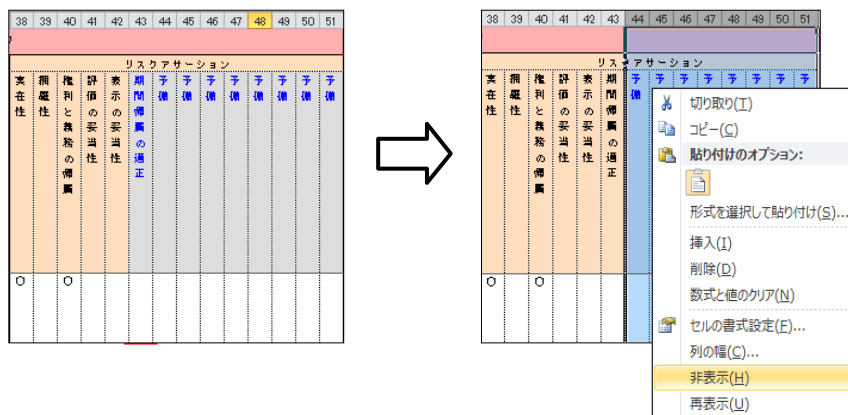


「再表示」メニューを選択します。

デフォルトでは非表示



予備の列が表示されるので、追加した項目のタイトルを記入します。



必要に応じて、フォントの色や背景色も変更します。

必要の無い列は再び非表示に戻します。

印刷ヘッダーの編集

RCM テンプレートの印刷ヘッダーは、出力用変数を利用して SOX+の「文書情報」に登録した値を出力することができます。

出力用変数は、文書情報の項目に登録した値を印刷ヘッダーに出力できるように用意したものです。

文書情報の項目すべての出力用変数を用意しています。

※AdministratorKit で文書情報の項目名を変更した場合は、その名前と読み替えてください。

文書情報の項目	出力用変数	文書情報の項目	出力用変数
文書識別	%DiagramID%	責任者	%ManagerName%
会社名	%CompanyName%	担当者	%StaffName%
事業拠点	%BusinessPlace%	バージョン	%Version%
プロセスID	%ProcessNo%	ステータス	%Status%
プロセス名称	%ProcessName%	作成者	%CreateStaff%
サブプロセスID	%SubProcessNo%	作成日	%CreateDate%
サブプロセス名称	%SubProcessName%	最終更新者	%LastModifyStaff%
業務ID	%DiagramNo%	最終更新日	%LastModifyDate%
業務名称	%DiagramName%	最終承認者	%ApprovalStaff%
勘定科目	%Account%	最終承認日	%ApprovalDate%
システム名	%SystemName%	概要	%Summary%
使用帳票	%Document%	補足説明	%SupplementalRemarks%
規定文書	%Regulations%	備考	%Remarks%
部門	%SectionName%		

出力用変数は、「RCM」シートの印刷ヘッダー「左側」と「右側」のみに設定します。

この設定情報を SOX+の RCM 出力時に読み、SOX+画面でアクティブ（最前面）になっている文書の「文書情報」の対応する値に置き換えられ、「業務記述」「RCM」*「RC 関連表」シートの「左側」「右側」の印刷ヘッダーに出力します。

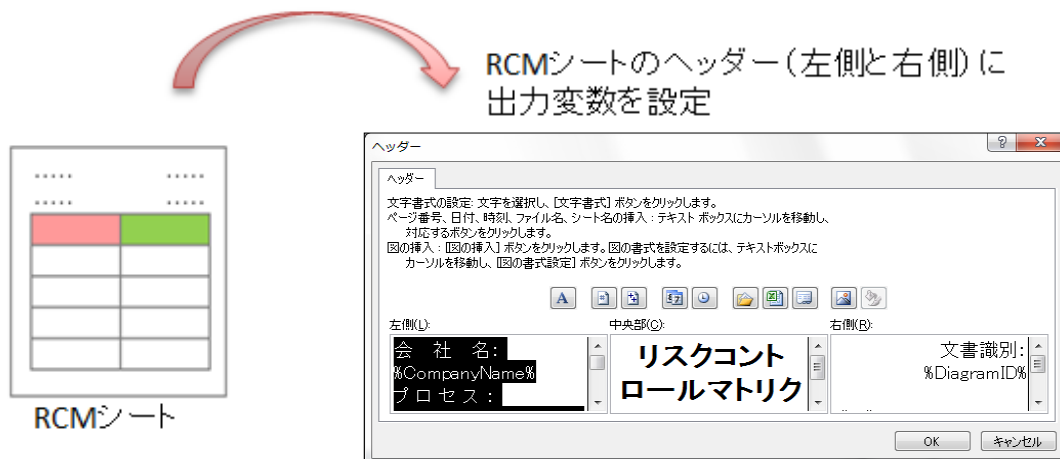
印刷ヘッダーの設定時に RCM シートが表示されていない場合は、「RCM 出力情報の設定」で表示させてください。

1. 出力用変数の設定

RCMシートの「ページ設定」を開き、「ヘッダーの編集」ボタンをクリックします。

左側と右側に出力用変数を設定します。

中央部は「タイトル」です。タイトルのみ、各シートごとに入力します。



初期設定のヘッダー定義は以下の通りです。

ヘッダー部位	設定内容
左側	会 社 名 : %CompanyName% プ ロ セ ス : %ProcessNo%%ProcessName% サブプロセス : %SubProcessNo%%SubProcessName% 業 務 : %DiagramNo%%DiagramName%
中央部「固定」	リスクコントロールマトリクス
右側	文書識別 : %DiagramID% 作成日 : %CreateDate% 更新日 : %LastModifyDate%

通常、Excel のヘッダーには 250 文字程度しか文字が入りません。印刷ヘッダーに入力する文字数と、出力用変数から変換される文字数を考慮して、出力用変数を設定してください。

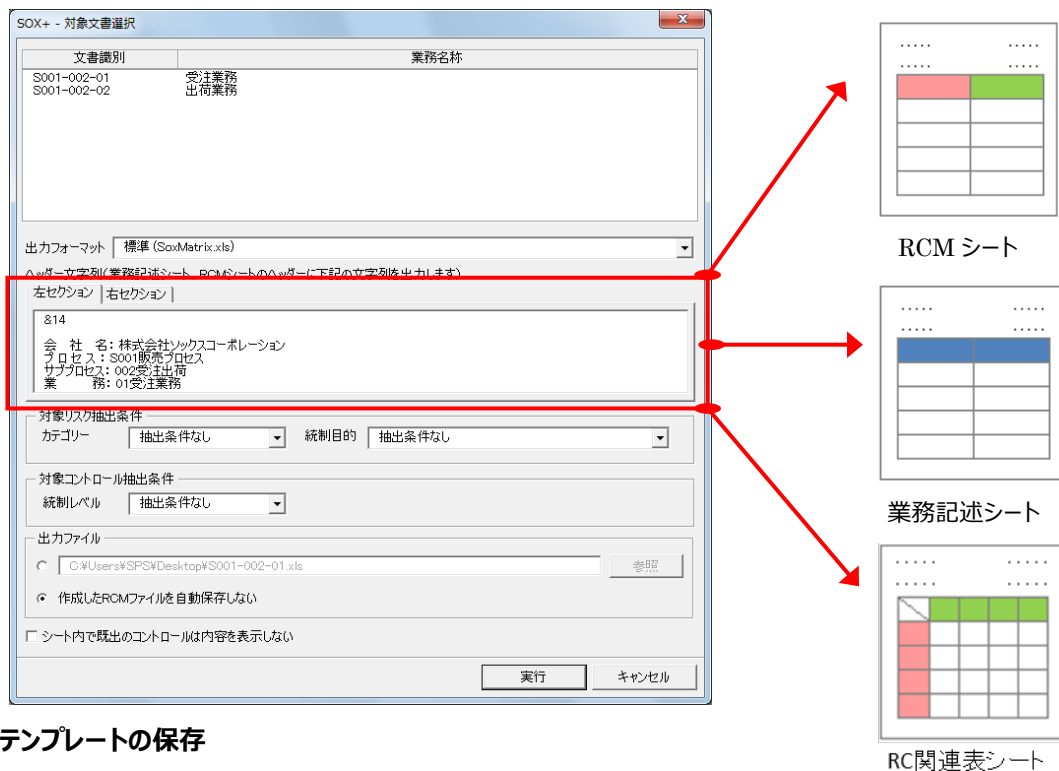
例) 株式会社ソックスコーポレーションの会社名は 16 文字、事業拠点名は 5～12 文字、プロセス・サブプロセス・業務は ID が 4 文字と名称が 6～20 文字です。文書識別は 11 文字、日付は全て 10 文字と決まっています。

出力用変数以外でヘッダーに設定された文字は、「会 社 名 : 」などに改行・空白を加えて 50 文字程度なので、まだ少しだけ余裕があります。

2. RCM出力

RCM シートの印刷ヘッダーに登録した出力用変数は、業務フローチャートを RCM 出力する際に読み込まれ、出力用変数に対応する文書情報の値に変換されます。

変換されたヘッダー情報は、「業務記述」「RCM」*「RC 関連表」シートの印刷ヘッダーに出力されます。

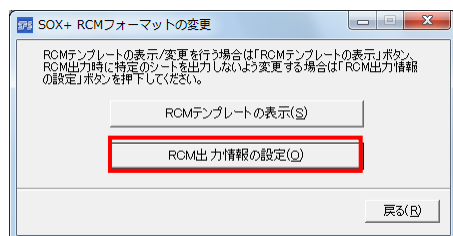


RCMテンプレートの保存

必要な編集が終わったら、RCM テンプレートを**上書保存**して Excel を閉じます。

RCM出力情報の設定

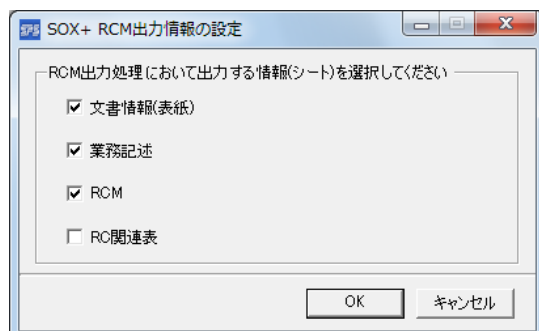
「RCM 出力情報の設定」を選択すると、RCM 出力時の表示シートを限定することができます。



「文書情報(表紙)」、「業務記述」、「RCM」、*「RC 関連表」の4項目が表示されますので、RCM 出力時に必要のないシートは、チェックをはずしてシートを非表示にします。

※ 「RC 関連表」項目は、SOX+ 整備/運用評価オプションご利用ユーザーのみ表示されます。

「RC 関連表」シートについては『SOX+ 整備/運用評価オプション ユーザーズガイド』をご覧ください。



RCMデータ出力位置の変更

業務記述書・RCMの列項目の表示・非表示の指定、そして並び順やデータのソート順を設定することができます。

データ出力位置の変更をする前に

- ・ 配布ファイルを作成しておく、いつでも「配布ファイル作成履歴」機能より元の状態に戻すことができます。
- ・ RCMテンプレートを開き、別名で保存しておきます。「データ出力位置の変更」で新しく作られるテンプレートは書式などが全て初期化されていますので、編集の参考になるものがあると便利です。

	A	M	N	T	X	AL	AM	AN
1								
2								
3								
4								
5								
6	文書情報	業務詳細			リ	ス	ク	
7								
8	文書識別	No	業務詳細名称	No	リスク内容			リスクア
9								
10	文書識別	業務No	業務詳細名称	リスクNo	リスク内容	リスクアサ	リスクアサ	リスクアサ
11						ション1	ション2	ション3
12								

1～9行目はヘッダエリアとしてご自由にお使い下さい。
不要の行は非表示にして下さい。(行の削除はしないで下さい)
この吹き出しは削除してください。

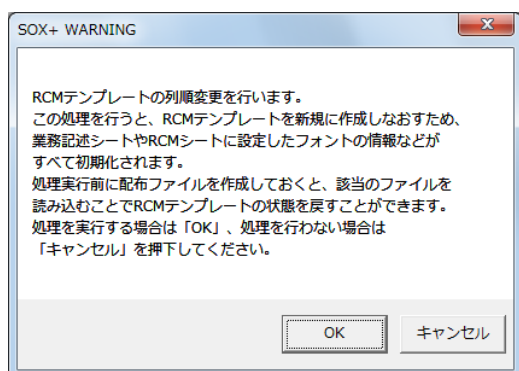
10行目からは情報の出力エリアです。
10行目に書式を設定して下さい。コピーされます。
この吹き出しは削除してください。

初期化された RCM テンプレート

最初の警告メッセージ

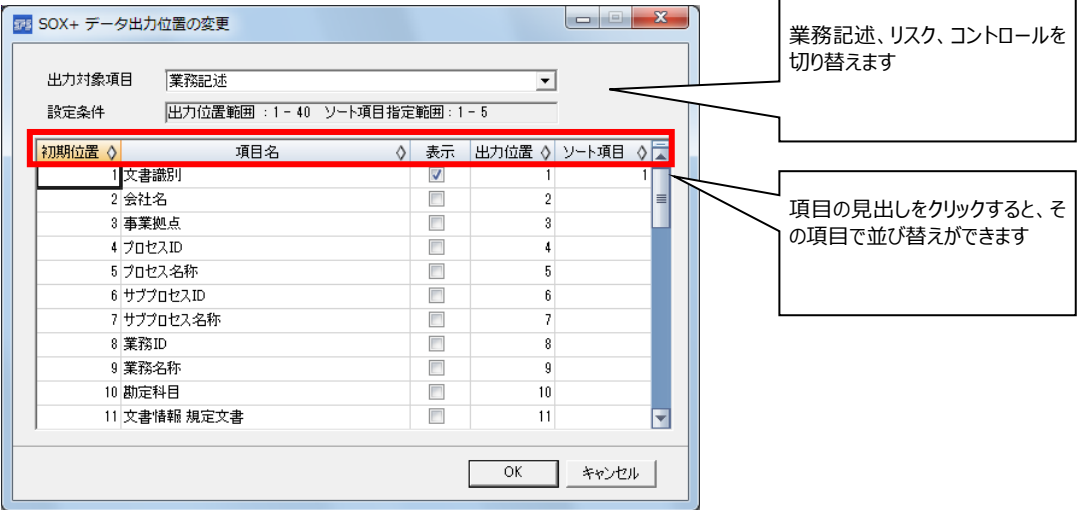
「データ出力位置の変更」ボタンをクリックすると、WARNING メッセージが表示されます。

データ出力位置変更を実行するとそれまで編集してきた RCM テンプレートは削除され、初期化された新しいテンプレートが作られます。これまでの RCM テンプレートを残したい場合は、事前に配布ファイルを作成する等行ってから本機能を実行してください。



RCMデータ出力位置の変更

出力対象項目を「業務記述」「リスク」「コントロール」に切替えると、対象の項目が表示されます。
項目名は変更できません。項目名の変更は、この設定後に作成された RCM テンプレートで変更してください。



項目	説明
出力対象項目	編集対象を選択します。業務記述（業務記述シート）、リスク（RCMシート左側のリスク部）、コントロール（RCMシート右側のコントロール部）の3箇所を編集可能です。
設定条件	選択した出力対象項目で、項目の出力位置として指定可能な範囲（列数）と、ソート項目として指定可能な項目数を表示しています。 RCMシートについてはリスク項目とコントロール項目が混在しないように、リスク領域とコントロール領域に分けて、それぞれの中での位置の変更を行います。 リスクは1-51列の範囲で、コントロールは51-133列の範囲内で変更します。
初期位置	項目の初期設定の出力位置を表示しています。 タイトル部をクリックするとこの順でソートされます。
項目名	並び替えの対象となる項目名です。 最後にOKボタンを押すと、この項目名が指定された順に並べられてRCMテンプレートが作成されます。 この項目名は固定です。既に「項目名・データリストの変更」で名前を別のものに変更している場合は、作成されたテンプレートを修正してください。
表示	作成するRCMの列の表示・非表示を指定できます。 表示・非表示の切り替え自体は、「RCMフォーマットの変更」機能で後からいつでも変更できます。
出力位置	位置を変更したい項目を指定してダブルクリックし、順目の数字を入力することができます。入力後に自動で数字が詰められます。 タイトルをクリックするとソートできます。
ソート項目	RCM出力時にソートキーとして使われる項目を指定できます。（昇順） 初期設定では出力情報は「文書識別」で文書順に並び、次に文書の中では「図形ナンバー」順に並ぶように設定されています。通常は変更の必要はありません。

出力位置の編集時に、ある項目を n 番目と m 番目の項目の間に移動したい場合は、近い方の数字を入力します。

例えば 8 番の項目を 10 と 11 の間に移動したい場合は、8 番目の項目の出力位置を「10」に変更します。それに伴い、初期位置 9 番目の項目が 8 へ、10 番目の項目が 9 へと自動的に繰り上がります。

初期位置	項目名	表示	出力位置	ソート項目
1	文書識別	<input checked="" type="checkbox"/>	1	1
2	会社名	<input type="checkbox"/>	2	
3	事業拠点	<input type="checkbox"/>	3	
4	プロセスID	<input type="checkbox"/>	4	
5	プロセス名称	<input type="checkbox"/>	5	
6	サブプロセスID	<input type="checkbox"/>	6	
7	サブプロセス名称	<input type="checkbox"/>	7	
8	業務ID	<input type="checkbox"/>	8	
9	業務名称	<input type="checkbox"/>	9	
10	勘定科目	<input type="checkbox"/>	10	
11	文書情報 規定文書	<input type="checkbox"/>	11	

⇒

初期位置	項目名	表示	出力位置	ソート項目
1	文書識別	<input checked="" type="checkbox"/>	1	1
2	会社名	<input type="checkbox"/>	2	
3	事業拠点	<input type="checkbox"/>	3	
4	プロセスID	<input type="checkbox"/>	4	
5	プロセス名称	<input type="checkbox"/>	5	
6	サブプロセスID	<input type="checkbox"/>	6	
7	サブプロセス名称	<input type="checkbox"/>	7	
8	業務ID	<input type="checkbox"/>	10	
9	業務名称	<input type="checkbox"/>	9	
10	勘定科目	<input type="checkbox"/>	9	
11	文書情報 規定文書	<input type="checkbox"/>	11	

17 番の項目を 10 と 11 の間に移動したい場合は、近い数字の「11」を入力します。初期設定値 11 番目から 16 番目の項目の位置が 1 つずつ繰り下がります。

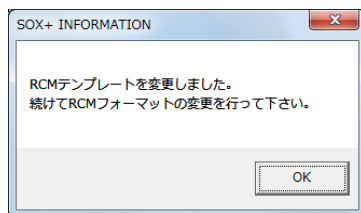
初期位置	項目名	表示	出力位置	ソート項目
9	業務名称	<input type="checkbox"/>	9	
10	勘定科目	<input type="checkbox"/>	10	
11	文書情報 規定文書	<input type="checkbox"/>	11	
12	文書情報 使用帳票	<input type="checkbox"/>	12	
13	文書情報 システム名	<input type="checkbox"/>	13	
14	フェーズ	<input type="checkbox"/>	14	
15	業務番号 ソート用	<input type="checkbox"/>	15	2
16	業務詳細 ObjectID	<input type="checkbox"/>	16	
17	業務詳細 No	<input checked="" type="checkbox"/>	17	
18	業務詳細名称	<input checked="" type="checkbox"/>	18	
19	業務詳細内容	<input checked="" type="checkbox"/>	19	

⇒

初期位置	項目名	表示	出力位置	ソート項目
9	業務名称	<input type="checkbox"/>	9	
10	勘定科目	<input type="checkbox"/>	10	
11	文書情報 規定文書	<input type="checkbox"/>	12	
12	文書情報 使用帳票	<input type="checkbox"/>	13	
13	文書情報 システム名	<input type="checkbox"/>	14	
14	フェーズ	<input type="checkbox"/>	15	
15	業務番号 ソート用	<input type="checkbox"/>	16	2
16	業務詳細 ObjectID	<input type="checkbox"/>	17	
17	業務詳細 No	<input checked="" type="checkbox"/>	11	
18	業務詳細名称	<input checked="" type="checkbox"/>	18	
19	業務詳細内容	<input checked="" type="checkbox"/>	19	

でき上がり予定の順番をあらかじめ計画してから変更を実行すると、効率よく変更することができます。

変更したい項目の指定が済んだら、「OK」ボタンを押して RCM テンプレートを生成します。



完了のメッセージが出たら、AdministratorKit のメニューから「RCM テンプレートの表示」を選んで、新しい RCM テンプレートを開いてください。

	A	M	N	T	V	X	AL	AM	AN	AO	AP	AG	BR	CD	CE
1															
2															
3															
4															
5															
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
16															
17															
18															
19															
20															
21															
22															
23															
24															
25															
26															
27															
28															
29															
30															
31															
32															
33															
34															
35															
36															
37															
38															
39															
40															
41															
42															
43															
44															
45															
46															
47															
48															
49															
50															
51															
52															
53															
54															
55															
56															
57															
58															
59															
60															
61															
62															
63															
64															
65															
66															
67															
68															
69															
70															
71															
72															
73															
74															
75															
76															
77															
78															
79															
80															
81															
82															
83															
84															
85															
86															
87															
88															
89															
90															
91															
92															
93															
94															
95															
96															
97															
98															
99															
100															

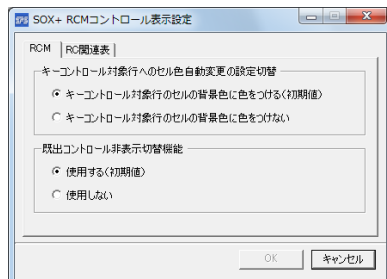
事前に別名で保存していた元の RCM テンプレートなどを参考にしながら、項目名、列の表示・非表示や列幅の設定・フォントの書式やセルの背景色などの書式を整えてください。

※書式編集の詳細は、RCM フォーマットの変更(P46)を参照してください。

RCMコントロール表示設定

RCM テンプレートのコントロール表示の設定を変更することができます。

- ※ 「RC 関連表」タブは、SOX+ 整備/運用評価オプションご利用ユーザーのみ表示されます。
- 「RC 関連表」の詳細については『SOX+ 整備/運用評価オプション ユーザーズガイド』をご覧ください。



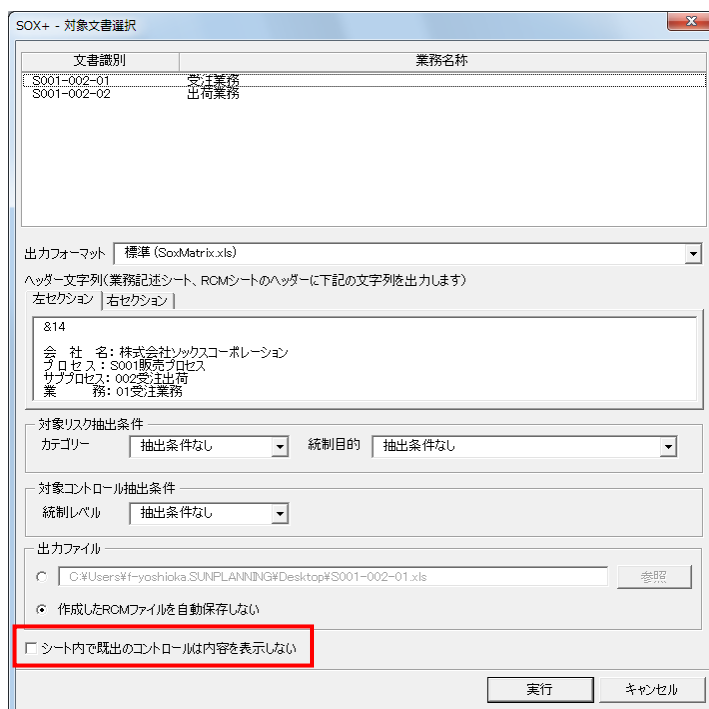
キーコントロール対象行へのセル色自動変更の設定切替

SOX+の初期設定では、コントロールの「統制レベル」項目に「キーコントロール」が設定されていると、RCM 出力時に RCM シートの「キーコントロール」の行を「青」にして出力します。
ここでは、この機能の ON/OFF を選択できます。

なお、SOX+ バージョン 2 から RCM テンプレートをそのまま引き継いでご使用になられている場合は、切り替え機能はご使用になれません。

既出コントロール非表示切替機能

RCM 出力時の「対象文書選択」ダイアログボックスの「シート内で既出のコントロールは内容を表示しない」チェックボックス表示（初期設定）を非表示にすることができます。



RCM シートでは、左側にリスク、右側に各リスクをターゲットとしているコントロールが並びます。

コントロールが複数のリスクをターゲットとしている場合、リスクの数だけ同一内容のコントロールが繰り返し出力されます。

No	業務詳細名称	No	リスク内容	リスクアセスメント 実施 評価 権限 と 業務 の 関係 の 適切 性	表示 の 多 量 性	文書識別	No	業務詳細名称	No	コントロール内容
3	受入力オペ	R1	架空の受注を受けるリスク	○	○	S001-002-01	7	注文請書を出 力	C1	「注文請書」を出力して、注文内容の確認を行う。
						S001-002-01	8	承認	C2	責任者は「注文請書」、「受注一覧」の内容（単価、与信限度、品目等々）をし ビューし、承認する。
3	受入力オペ	R2	注文書データがエラーで受領できず、 売上機会を喪失する リスク	○	○	S001-002-01	12	販売管理シス テム	C4	「注文書」の受付窓口を特定する（基本的 にEDIとする）
3	受入力オペ	R3	受入力データを誤りにより「注文書」とは異 なる受注・出荷が行 われるリスク	○	○	S001-002-01	8	承認	C2	責任者は「注文請書」、「受注一覧」の内 容（単価、与信限度、品目等々）をし ビューし、承認する。
						S001-002-01	12	販売管理シス テム	C5	受入力上、マスターに登録された情報の み使用可能とする。
4	価格表を確認	R4	単価を誤って注文を 受けるリスク	○	○	S001-002-01	8	承認	C2	責任者は「注文請書」、「受注一覧」の内 容（単価、与信限度、品目等々）をし ビューし、承認する。

例) C2が複数リスクをターゲットとしている場合のRCM

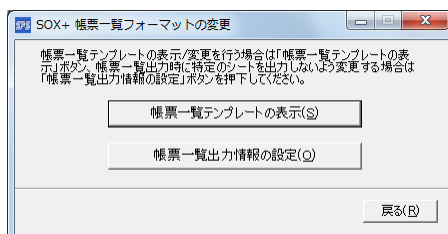
RCM 出力の際に「シート内で既出のコントロールは内容を表示しない」にチェックを入れると、既出コントロールの文書識別と No のみ表示させ、他の項目は非表示になります。

No	業務詳細名称	No	リスク内容	リスクアセスメント 実施 評価 権限 と 業務 の 関係 の 適切 性	表示 の 多 量 性	文書識別	No	業務詳細名称	No	コントロール内容
3	受入力オペ	R1	架空の受注を受けるリスク	○	○	S001-002-01	7	注文請書を出 力	C1	「注文請書」を出力して、注文内容の確認を行う。
						S001-002-01	8	承認	C2	責任者は「注文請書」、「受注一覧」の内 容（単価、与信限度、品目等々）をし ビューし、承認する。
3	受入力オペ	R2	注文書データがエラーで受領できず、 売上機会を喪失する リスク	○	○	S001-002-01	12	販売管理シス テム	C4	「注文書」の受付窓口を特定する（基本的 にEDIとする）
3	受入力オペ	R3	受入力データを誤りにより「注文書」とは異 なる受注・出荷が行 われるリスク	○	○	S001-002-01			C2	
						S001-002-01	12	販売管理シス テム	C5	受入力上、マスターに登録された情報の み使用可能とする。
4	価格表を確認	R4	単価を誤って注文を 受けるリスク	○	○	S001-002-01			C2	

例) 「シート内で既出のコントロールは内容を表示しない」機能を使用して出力したRCM

帳票一覧フォーマットの変更

帳票一覧テンプレート（DocumentList.xlsx）を表示します。使用帳票／証憑一覧出力時に特定のシートを表示しないようにする場合は、「帳票一覧出力情報の設定」で制限することができます。



帳票一覧テンプレートの表示

帳票一覧テンプレート（使用帳票一覧シートと証憑一覧シート）を編集します。ここでは主に列項目の表示、非表示やデータ行の書式や表示形式の変更を行います。帳票一覧テンプレートに必要な列項目はすべて用意しています。必要に合わせて表示、非表示でフォーマットを整えてください。

列の追加と削除は行わないでください。

初期設定時に非表示になっている列項目はグレーの色が付いています。

※詳細については RCM フォーマットの変更 P46 をご覧ください。

【初期設定の列項目】

	A	L	O	P	T	U
8	文書識別	使用帳票	No	業務詳細名称	部門	実施者
9						
10						

「使用帳票一覧」シート

	A	K	N	O	R	U	V	Y	Z	AS
8	文書識別	証憑	No	業務詳細名称	コントロール No	統制タイプ	統制頻度	部門	実施者	統制レベル
9										
10										

「証憑一覧」シート

【すべての列項目を表示】

	A	B	C	D	E	F	G
8	文書識別	会社名	事業拠点	ID	プロセス名称	ID	サブプロセス名称
9							
10							

「使用帳票一覧」シート

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
8	文書識別	会社名	事業拠点	ID	プロセス名称	ID	サブプロセス名称	ID	業務名称	基
9										
10										

「証憑一覧」シート

使用帳票一覧シート・証憑一覧シートの変更

① ヘッダー部

見出しです。内容も書式も自由に変更できます。非表示にすることもできます。

文書識別	証憑	No	業務詳細名称	コントロール No	統制タイプ	統制頻度

② データ部

セルの書式設定（フォント設定含）や背景色を変更できます。

注意点は以下の 2 点です。

- 行の高さを変更した場合は、最後に Excel の「書式」メニューの「行」の「自動調整」で高さが自動で変わるようにしておいてください。

- ・ 「セルの書式設定」の「表示形式」は「標準」にしておいてください。
「文字列」は 1 セルに 256 文字以上の文字が出力されると正常に表示されません。

印刷ヘッダーの編集

出力用変数は、「証憑一覧」シートの印刷ヘッダー「**左側**」と「**右側**」のみに設定します。

この設定情報を SOX+の使用帳票／証憑一覧出力時に読み込み、SOX+画面でアクティブ（最前面）になっている文書の「文書情報」の対応する値に置き換えられ、「使用帳票一覧」「証憑一覧」シートの「**左側**」「**右側**」の印刷ヘッダーに出力します。

印刷ヘッダーの編集方法は、RCM テンプレートの印刷ヘッダー設定と同じです。

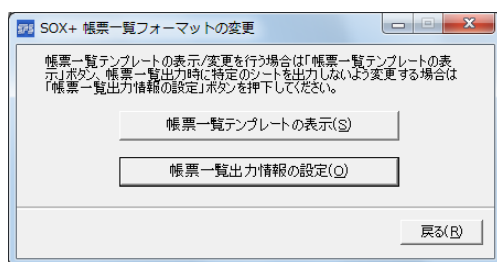
※詳細については、印刷ヘッダーの編集(P51)をご覧ください。

帳票一覧テンプレートの保存

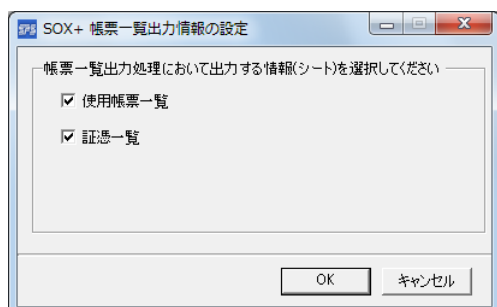
必要な編集が終わったら、帳票一覧テンプレートを**上書保存**して Excel を閉じます。

帳票一覧出力情報の設定

「帳票一覧出力情報の設定」を選択すると、使用帳票／証憑一覧出力時の表示シートを限定することができます。



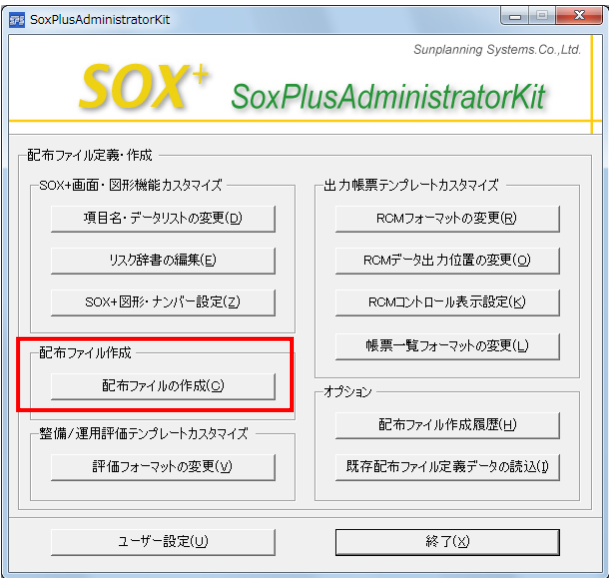
「使用帳票一覧」、「証憑一覧」の 2 項目が表示されますので、使用帳票／証憑一覧出力時に必要のないシートは、チェックをはずしてシートを非表示にします。



第 6 章 配布ファイル作成

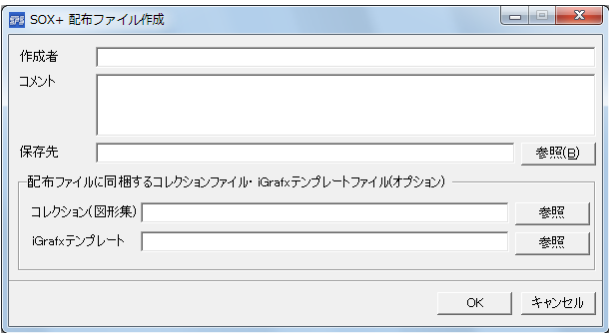
AdministratorKit でカスタマイズした設定内容を SOX+ に反映させるための配布ファイルを作成します。

作成した配布ファイルをクライアント PC に取込む方法については「SOX+ ユーザーズガイド（第 4 章 配布ファイルの取り込み機能）」をご覧ください。



AdministratorKit で項目名や RCM フォーマットを変更しただけでは SOX+ に反映されていません。

設定変更を行った場合は、忘れずに配布ファイルを作成してください。



内容	説明
作成者・コメント	この配布ファイルの作成者情報、変更点や変更の際の注記などを入力します。SOX+で配布ファイルを取り込んだときに表示されます。
保存先（指定必須）	作成した配布ファイルの保存先とファイル名を指定します。
配布ファイルに同梱するコレクションファイル・iGrafxテンプレートファイルの指定（オプション）	iGrafxで作成した、自社用の図形集やiGrafxドキュメントのひな形（テンプレート）を各クライアントPCに導入するために、配布ファイルに添付することができます。

- ※ AdministratorKit バージョン 6 より「配布先ユーザーのカスタマイズ定義データの取込位置の指定」機能が廃止になりました。作成した配布ファイルは自動的に「ユーザー毎」設定で保存されます。
- ※ 同じ PC にインストールされた SOX+を、ユーザーを切り替えて複数人で使用している場合、それぞれのユーザーで配布ファイルの取り込みが必要です。

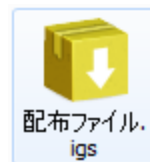
配布ファイルの設定項目

保存先

配布ファイルのファイル名と、保存先フォルダを指定します。

「参照」ボタンをクリックして、保存先を選択し、配布ファイルの名称を入力してください。

配布ファイルの拡張子は「.igs」です。名前に「.」(ピリオド)が入ったファイル名をつけた場合は、拡張子が自動でつかない場合があります。その場合は、作成を実行する前に拡張子を手動で付けてください。



配布ファイルに同梱するコレクション・iGrafXテンプレートファイル

iGrafX FlowCharter で作成した図形集（コレクション）や iGrafX テンプレートを、配布ファイル作成時に同梱することができます。

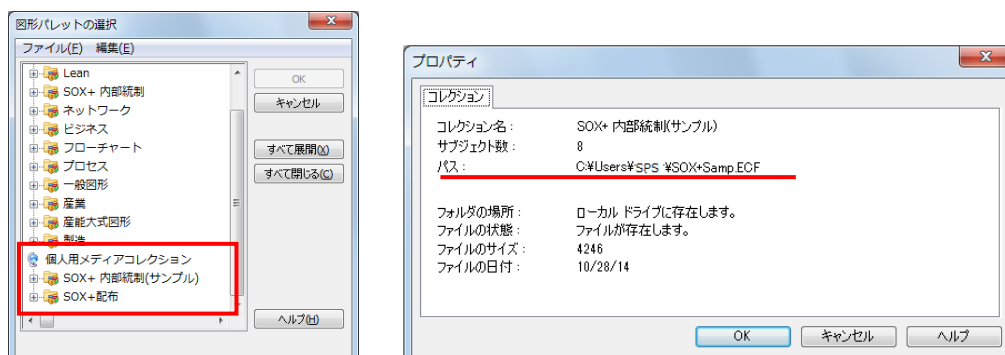
SOX+ で配布ファイルを取り込むと自動的に必要な保存場所に展開されます。

それぞれのファイルが保存される場所は、以下の通りです。

■図形集（コレクション）

個人用メディアコレクションの中に展開されます。iGrafX で「F9」を押して「図形パレットの選択」ダイアログを表示します。表示された「図形パレットの選択」ダイアログでフォルダを選択し、右クリックでプロパティを開きます。

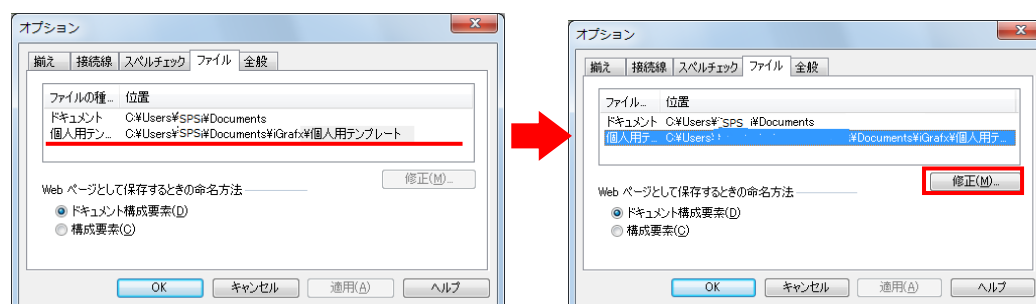
パスに記載された場所に保存されています。



■テンプレート

個人用テンプレートフォルダに展開されます。iGrafX の「ツール」メニューの「オプション」を開き「ファイル」タブを表示します。

個人用テンプレートの保存場所は、「修正」ボタンで自由に変更することができます。



※配布ファイルを取り込むと、添付された*.ecf/*.sbj ファイル、*.igt ファイルは所定のフォルダに保存されます。（同名のファイルがあれば上書きします。）

間違って保存されたファイルや不要になったファイルができた場合は、ファイルを所定のフォルダから直接削除してください。

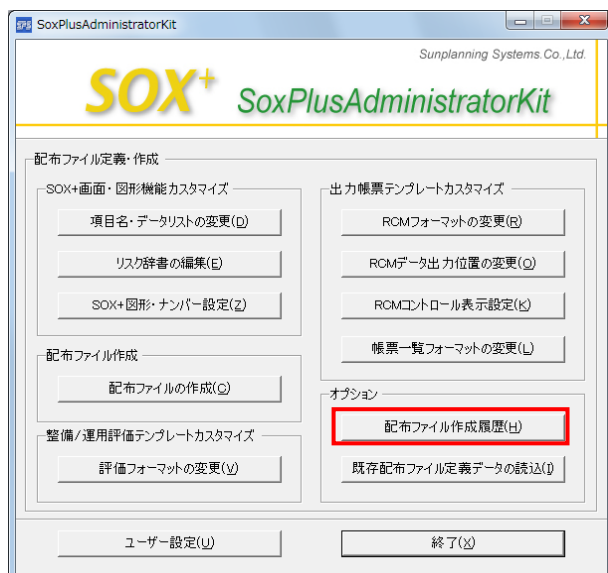
配布先ユーザーのカスタマイズ定義データの取込位置

各クライアント PC で配布ファイルの取込を実行すると、取り込んだ定義データは以下の場所に保存されます。配布ファイルの取込みには、以下のフォルダが編集できる状態になっている必要があります。

C:¥Users¥「ユーザー名」¥AppData¥Roaming¥iGrafx¥SOX_Plus

第7章 配布ファイルの履歴管理

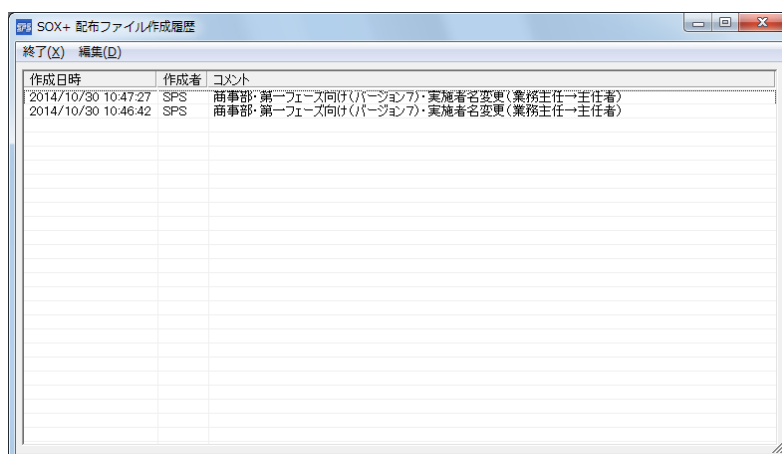
配布ファイルを作成した時点で履歴が更新されます。作成履歴の確認や、履歴から復元することができます。



配布ファイル作成履歴

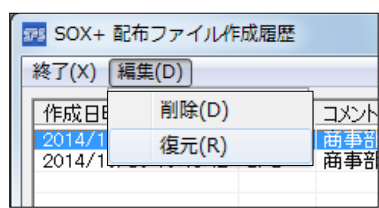
「配布ファイル作成履歴」ボタンをクリックし「SOX+配布ファイル作成履歴」ダイアログボックスを開きます。これまでに作成した配布ファイルの履歴を確認することができます。

ただし、確認できるのはユーザーがこの PC で作成したものだけです。他の PC で作成したものや、別のユーザーが作成したものは確認できません。



内容	説明
作成日時	配布ファイルを作成した日時が表示されます。
作成者	配布ファイルの作成者が表示されます。
コメント	配布ファイルのコメントが表示されます。

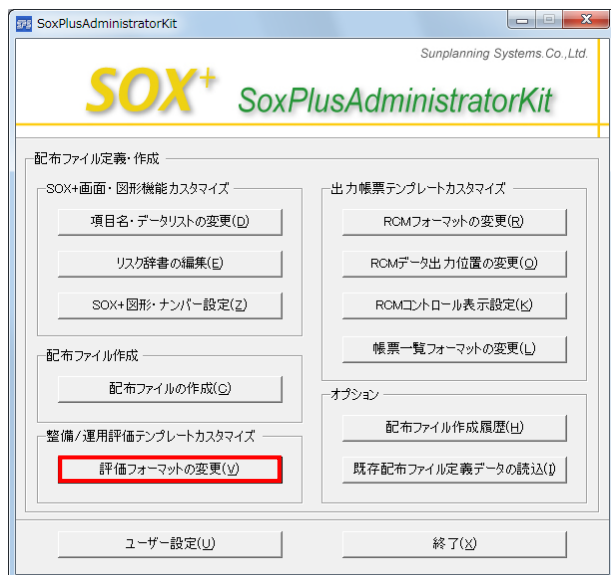
履歴を選択して、「編集」メニューから「復元」を選択すると、選択されている履歴の設定を読み込むことができます。確認を求められますので、OK ボタンをクリックすると、現在の設定が消去され、履歴の設定に置き換わります。



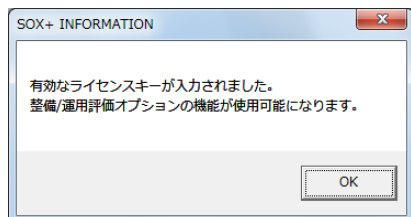
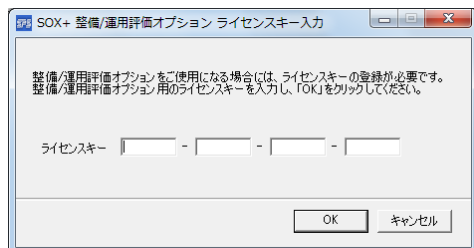
第8章 整備/運用評価テンプレートカスタマイズ

SOX+ 整備/運用評価オプションで追加される評価表テンプレートのカスタマイズを行います。

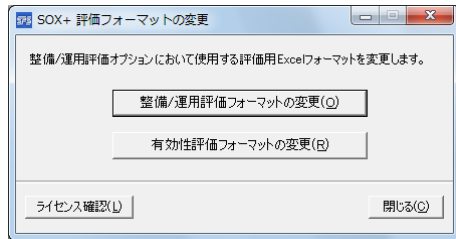
※本機能は、SOX+ 整備/運用評価オプションをご購入のお客様のみご利用頂くことができます。ご購入されたお客様は必ずライセンスキーを入力してください。



「評価フォーマットの変更」ボタンをクリックし、ライセンスキーを入力し「OK」ボタンをクリックします。



ライセンスキーを入力することで、「評価フォーマットの変更」機能が利用可能になると同時に、「SOX+画面・図形機能カスタマイズ」の中の「項目名・データリストの変更」(P18)にも、SOX+ 整備/運用評価オプションで追加されるダイアログボックス画面の修正用項目が追加されます。



「整備/運用評価フォーマットの変更」は「業務・コントロール評価表」テンプレートファイル (SOx OptionControl.xlsm) を Excel で編集し、表示する情報や書式設定、印刷ヘッダーなどを変更することができます。

「有効性評価フォーマットの変更」は「リスク・全体評価表」テンプレートファイル (SOx OptionRisk.xlsx) を Excel で編集し、表示する情報や書式設定、印刷ヘッダーなどを変更することができます。

- ・ 「業務評価」シート、「コントロール評価」シート、「評価調書」シート、「リスク評価」シート、「全体評価」シートで列の表示・非表示の切り替えを行います。
- ・ 各シートのテキスト（見出し・項目名）を変更します。
特に「項目名・データリストの変更」で項目名の変更や、チェックボックス、ラジオボタンなどのデータリストの修正を行った場合、それに合わせて見出しの変更を行います。（手動）
- ・ 各シートの書式の編集を行います。
- ・ 印刷ヘッダーの編集を行います。

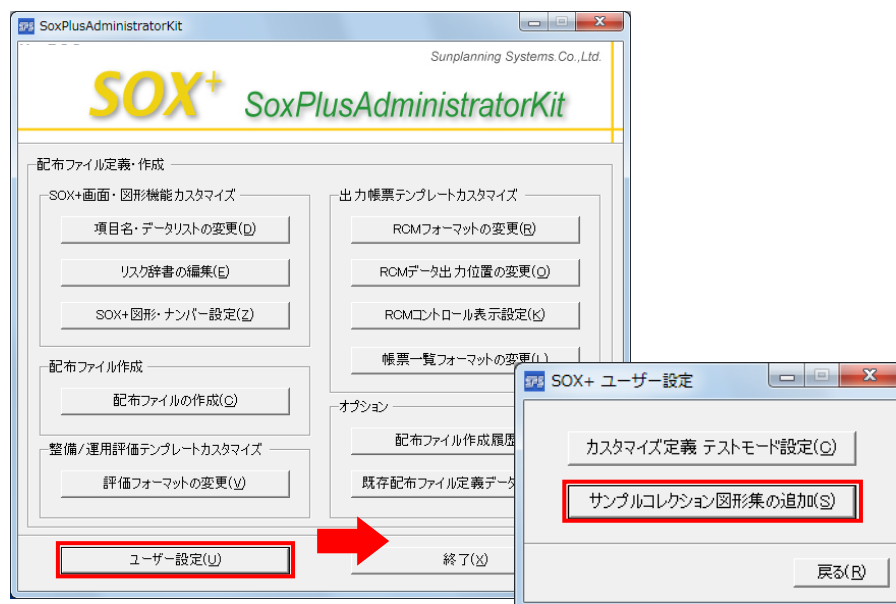
列の入れ替え、および列の挿入・削除はできません。正しく出力されなくなります。

SOX+ 整備/運用評価オプションで追加される各評価表の項目リストなど、さらに詳しい操作については、『SOX+ 整備/運用評価オプション ユーザーズガイド』をご参照ください。

SOX+ 整備/運用評価オプションの機能を利用できなくしたい場合は、「SOX+評価フォーマットの変更」画面の左下にある「ライセンス確認」ボタンから、ライセンス入力画面を開き、ライセンスキーをすべて削除してください。

第9章 サンプル図形集

SOX+のインストール時に用意されている SOX+図形以外に SOX+のフロー作成で利用できる図形集を追加することができます。

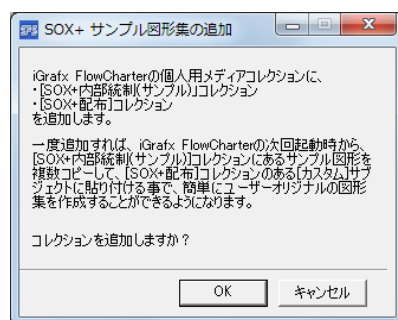


サンプルコレクション図形集の追加

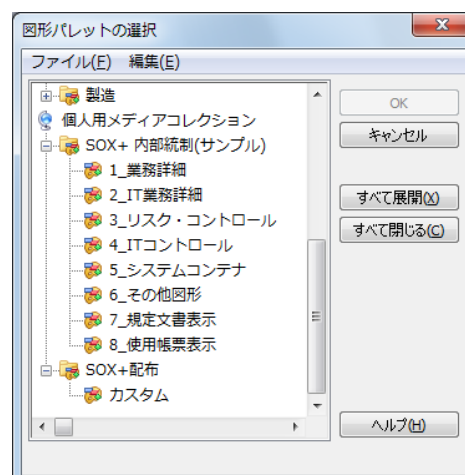
図形集はフォルダとシートで構成されており、フォルダを「コレクション」、シートを「サブジェクト」と言います。ここでいう「コレクション」はサブジェクトも含めた総称を表します。

「サンプルコレクション図形集の追加」ボタンをクリックすると、以下のダイアログボックスが表示されます。

「OK」ボタンをクリックします。



サンプルコレクションは、iGrafx FlowCharter の図形パレット（個人用メディアコレクション）に追加されます。追加されたサンプルコレクションの確認は、iGrafx FlowCharter を起動してください。



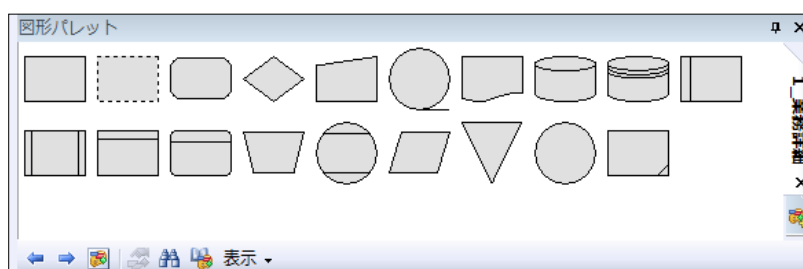
サンプルコレクションの紹介

サンプルコレクションの各サブジェクトに登録されているサンプル図形を紹介します。

【SOX+配布】コレクションの「カスタム」サブジェクトは、図形集を作成するための空のシートです。
自社用の図形集を作成する際にご利用ください。

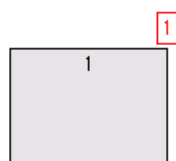
業務詳細図形

業務詳細ダイアログボックスを開くことのできる SOX+ 図形です。



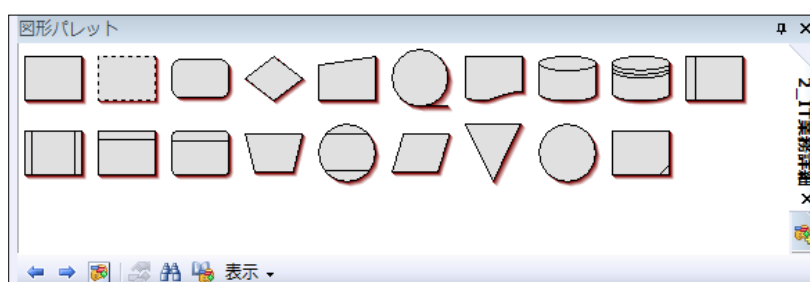
すべての図形の名称は、業務詳細「_SOX+」と登録してあります。名前を変更したい場合は、「_SOX+」を消さないようにすれば、それより前の部位の変更が可能です。

図形番号を表示させたときに右上に枠付きの赤文字で表示されるよう設定されています。



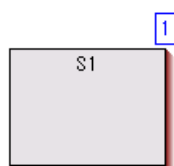
IT業務詳細図形

IT 業務詳細ダイアログボックスを開くことのできる SOX+ 図形です。



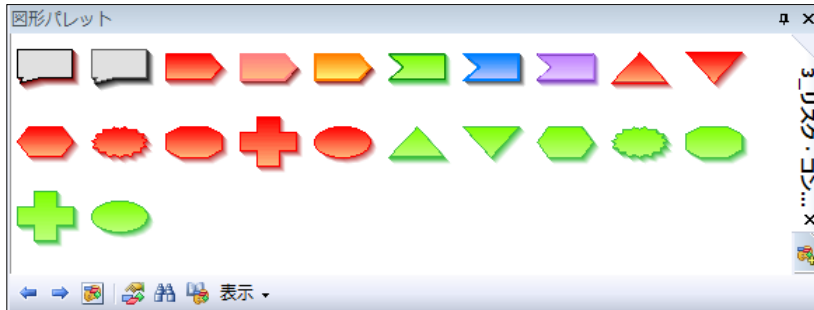
各図形の名称は、IT 業務詳細「_SOX+AP」と登録してあります。名前を変更したい場合は、「_SOX+AP」を消さないようにすれば、それより前の部位の変更が可能です。

図形番号を表示させたときに右上に枠付きの青文字で表示されるよう設定されています。



リスク・コントロール図形

リスク・コントロール図形には、図形に添付する形の業務詳細図形や、リスク図形やコントロール図形の色違い、形違いのサンプルを用意しています。



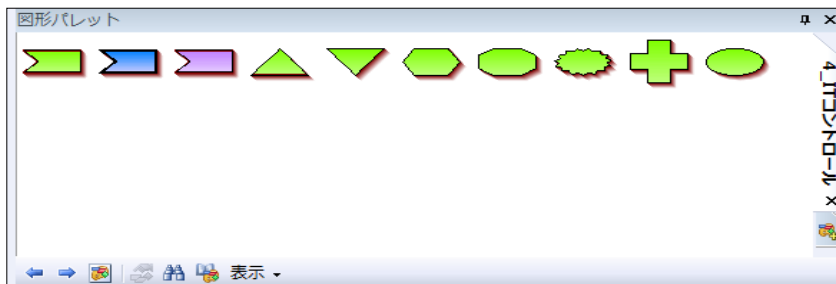
色や形の気に入った物をコピーして、カスタムに貼り付けてすぐに利用することができます。

名前を変更したい場合は、業務詳細図形は「_SOX+A」、IT 業務詳細図形は「_SOX+IA」、リスク図形は「SOX+R」、コントロール図形は「SOX+C」を消さないようにすれば、それより前の部位の変更は可能です。

例) コントロール「SOX+C」を マニュアル統制「SOX+C」に変更 など。

ITコントロール図形

IT コントロール図形です。



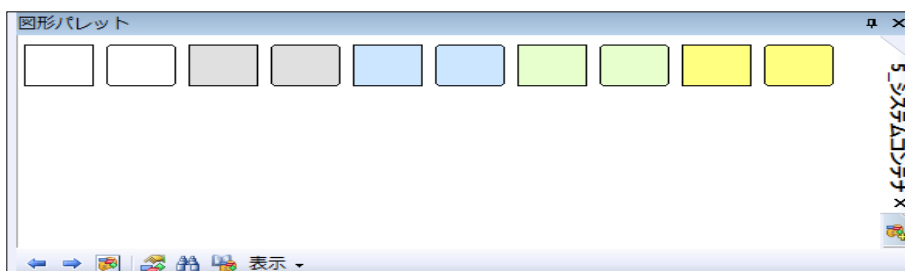
すべての図形の名称は、IT コントロール「SOX+IC」と登録してあります。色や形の気に入った物をコピーして、カスタムに貼り付けてすぐに利用することができます。

名前を変更したい場合は「SOX+IC」を消さなければ、それより前の部位の変更は可能です。

例) IT コントロール「SOX+IC」を IT 統制「SOX+IC」に変更 など。

システムコンテナ

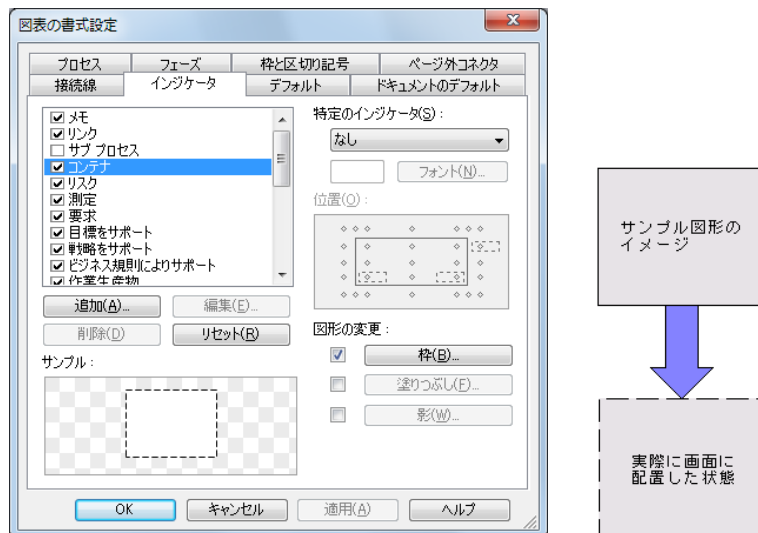
システムコンテナには、システムコンテナ図形の色違い、形違いのサンプルを用意しています。



すべての図形の名称は、システムコンテナ「_SOX+SC」と登録してあります。色や形の気に入った物をコピーして、カスタムに貼り付けてすぐに利用することができます。

システムコンテナ図形がフロー上に配置されると、ファイルに設定されているコンテナ図形のインジケータの設定に合わせて書式が反映されます。

初期設定では、以下のインジケータが設定されています。



コンテナのインジケータに枠線の設定がされているので、画面上に配置するとサブジェクト上の図形イメージと違う設定で配置されます。

画面上に配置したときの表示を変更したい場合は、こちらでファイルの設定を変えてください。

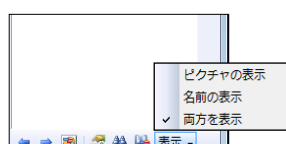
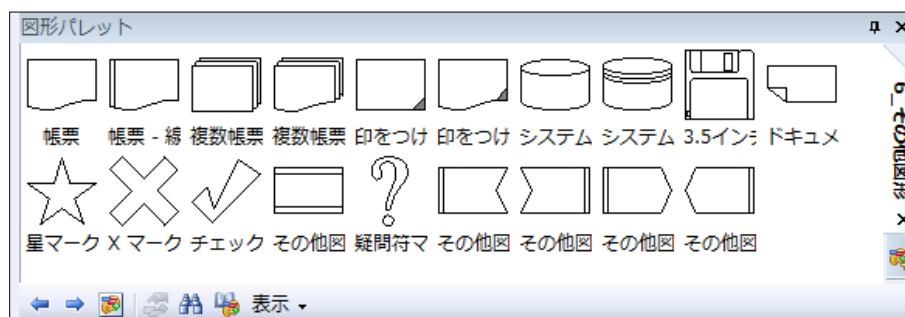
名前を変更したい場合は「_SOX+SC」を消さなければ、それより前の部位の変更は可能です。

その他図形

その他図形には、業務詳細図形でも、リスク図形でも、コントロール図形でもない、（SOX+ダイアログボックスの出ない）通常の図形のサンプルを用意しています。

業務ではない説明用にフロー上に配置したい図形として利用することができます。

SOX+ダイアログボックスが表示される図形ではありませんので、フロー上に配置したときに、業務ナンバーは付きません。



参考）上図だけ図形の名前も参考に表示しています。

図形パレットの「表示」メニューより「両方を表示」を選択すると上図のように表示されます。

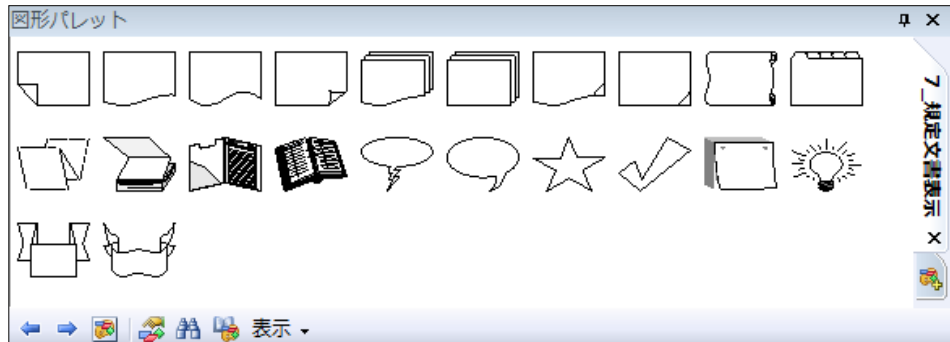
図形の名称は、それぞれ該当するイメージの名称が付けられています。名前は自由に変更することができます。

形の気に入った物をコピーして、カスタムに貼り付けてすぐに利用することができます。

規定文書表示

規定文書表示には、SOX+3.0 から追加された規定文書表示図形のサンプルを用意しています。

標準で用意されている図形以外の図形をお探しの場合は、このサンプルからコピーしてご利用ください。



使用帳票表示

使用帳票表示には、SOX+3.0 から追加された使用帳票表示図形のサンプルを用意しています。

標準で用意されている図形以外の図形をお探しの場合は、このサンプルからコピーしてご利用ください。



規定文書表示と使用帳票表示には、同じ図形が用意されています。両方で同じ図形を利用したい場合は、色分けするなどの工夫によりわかりやすくご利用頂けます。

第10章 自社用図形集とiGrafxテンプレートを作る

業務フローチャートを作成するにあたり、使用する図形やフローの向き、描画上のルールや印刷設定などを決めます。

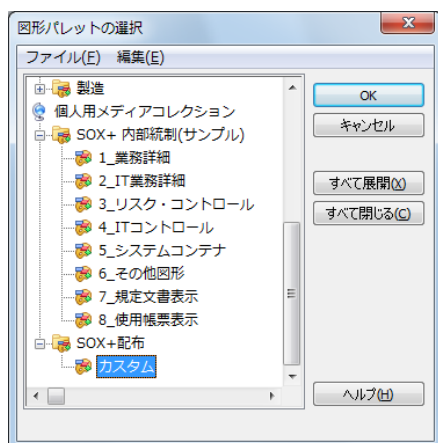
使用する図形は、自社用図形集として作成し、フローの向きや描画上のルール、印刷設定などは iGrafx テンプレートにあらかじめ設定しておきます。

自社用図形集を作成する

【SOX+配布】コレクションの「カスタム」サブジェクトを利用します。

インストール時に用意されている【SOX + 内部統制（サンプル）】コレクションの図形や【SOX+内部統制（サンプル）】コレクションから図形をコピーして、この「カスタム」サブジェクトに貼り付けるだけで、簡単にオリジナルな図形集を作成できます。

作成した図形集は配布ファイル作成時に含めることができます。



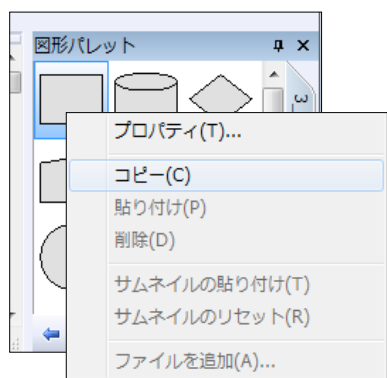
図形の編集方法

図形のコピー

コピーしたい図形の上で右クリックをし、「コピー」を選択します。

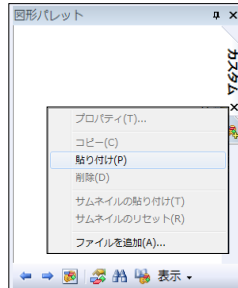
複数の図形を一度にコピーする方法として以下の複数選択の方法があります。

- ① 同じシート内で 1 つの図形を選択して、Shift キーを押しながら離れた図形を選択すると、その範囲で複数選択が可能です。
- ② 同じシート内で Ctrl キーを押しながら、任意の図形をクリックして複数選択します。



サンプル図形の貼り付け

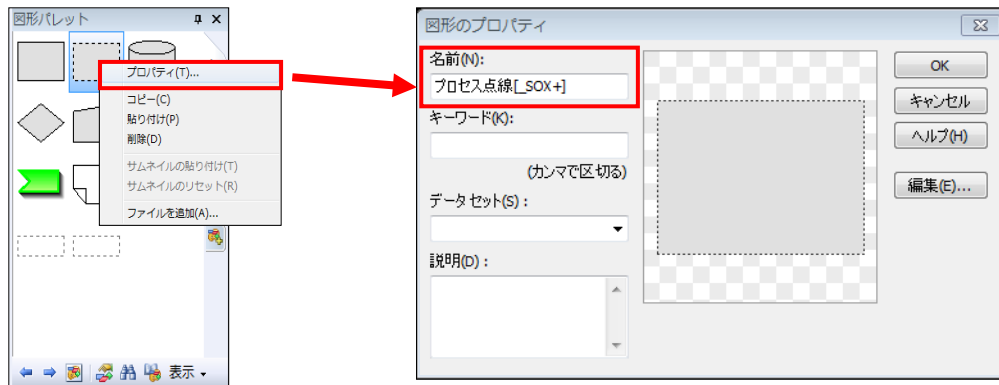
【SOX+配布】コレクションの「カスタム」サブジェクトを開き、その上で右クリックして、メニューから貼り付けを選択します。



※パブリックメディアコレクションのサブジェクトに対して図形の貼り付けはできません。

図形の名前の変更

貼り付けた図形の上で右クリックし、プロパティを開きます。



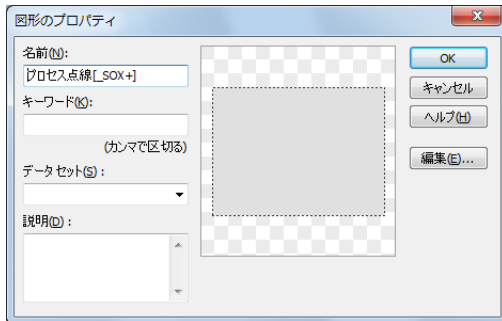
例えば、「1_業務詳細」サブジェクトのサンプル図形は、すべて同じ名前（業務詳細「_SOX+」）で登録されています。「カスタム」サブジェクトにコピーした後で、使用する図形の意味に合わせ業務詳細の部分を書き換えます。

※ [] で囲まれた部分は必要なので消さないでください。

図形の書式の変更

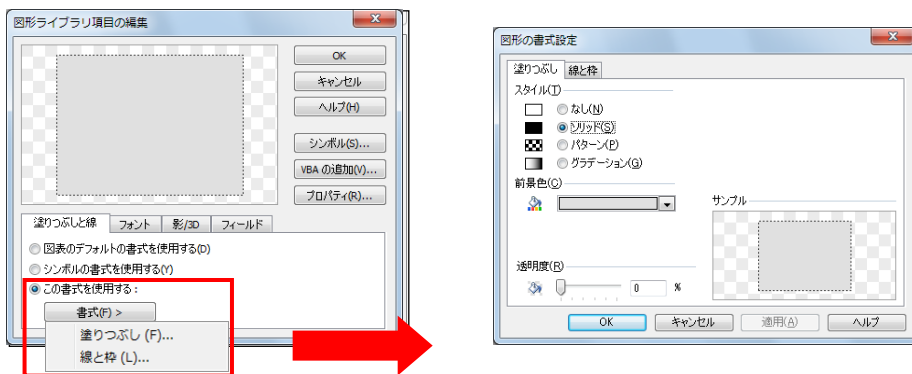
図形のプロパティを開きます。

- ① 「編集」ボタンをクリックして「図形ライブラリ項目の編集」ダイアログボックスを開きます。



- ② 「図表のデフォルト書式を使う」にチェックが入っていると、フロー上に追加したときに、追加した先のファイルの図形の初期設定が反映されます。

図形固有で設定する場合は「この書式を使用する」にチェックを入れて書式ボタンを押し、フォント、塗りつぶし、線と枠、影／3Dを選択して各ダイアログボックスを表示し、任意の設定に変更してください。

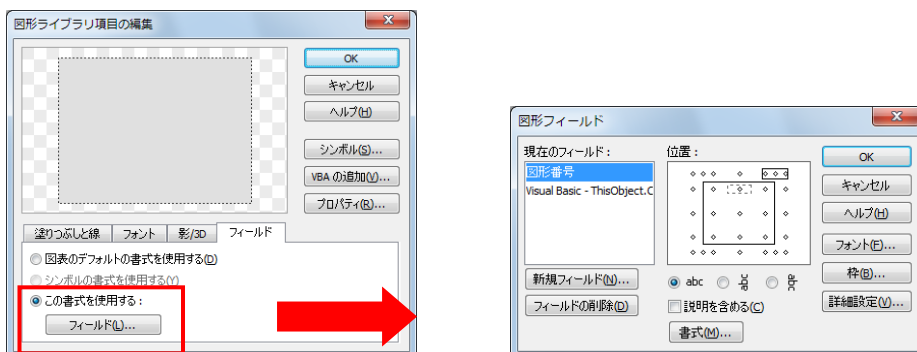


図形のフィールドの変更

図形が内部的に持っている値を図形のまわりに表記する機能です。

図形番号などのフィールド表記の書式や表記場所を変更することができます。

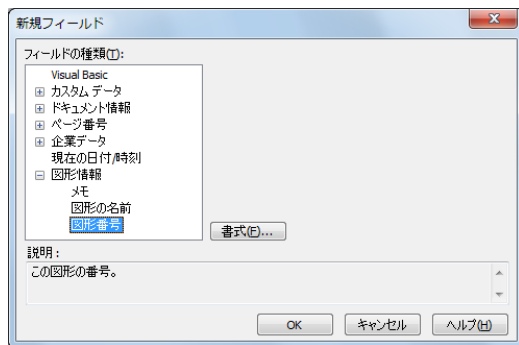
「フィールド」ボタンをクリックして「図形フィールド」ダイアログボックスを開きます。



※ サンプル図形では、フィールド設定に図形番号の表示位置と書式の定義がされています。

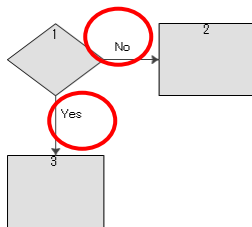
サンプル図形で設定されている図形番号は、フィールド画面の「詳細設定」で非表示にしていますので、画面上に配置した際に示されません。

「新規フィールド」ボタンをクリックすると、図形のまわりに表記できる値を選ぶことができます。

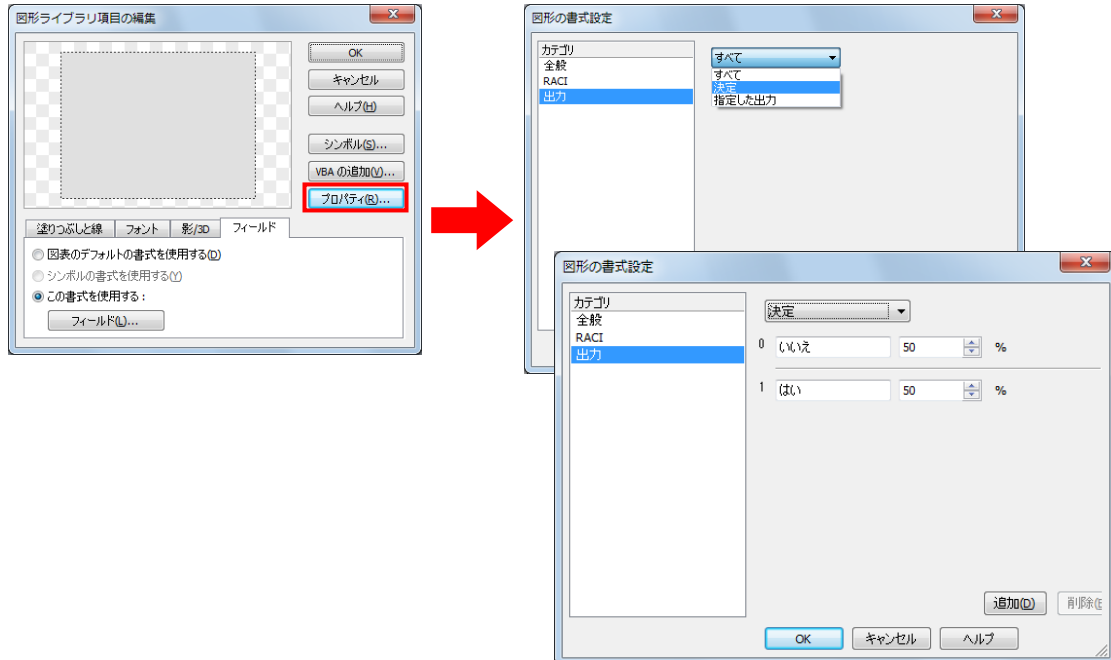


図形のプロパティの変更

ここではおもに業務フローチャートの判断に利用するラベルの出力や、ラベルそのものを変更することができます。



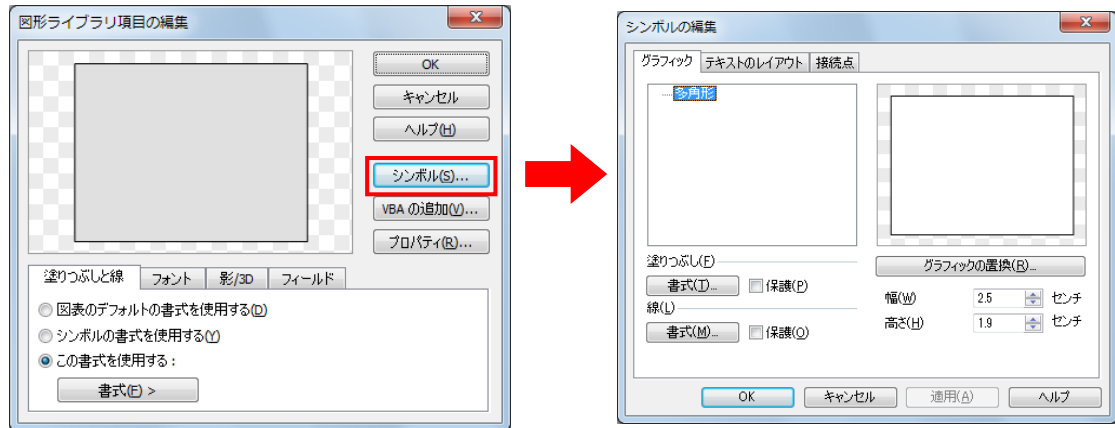
「プロパティ」ボタンをクリックして「図形の書式設定」ダイアログボックスを開きます。



図形のシンボルの変更

図形のサイズ、テキストのレイアウト、接続点の設定を変更することができます。

「シンボル」ボタンをクリックして「シンボルの編集」ダイアログボックスを開きます。



グラフィックタブでサイズを定義することができます。

※「図形ライブラリ項目の編集画面」にある、「VBA の追加」ボタンは絶対に押さないでください。間違えて押した場合は、その図形は破棄して、新しくサンプルコレクションからコピーして作りなおしてください。

グラフィックの置換ボタンをクリックすると、「グラフィックの選択」ダイアログボックスが開きます。図形パレットなどから任意の図形を選び、その図形のシンボルに置換することができます。（元の書式は残ります）



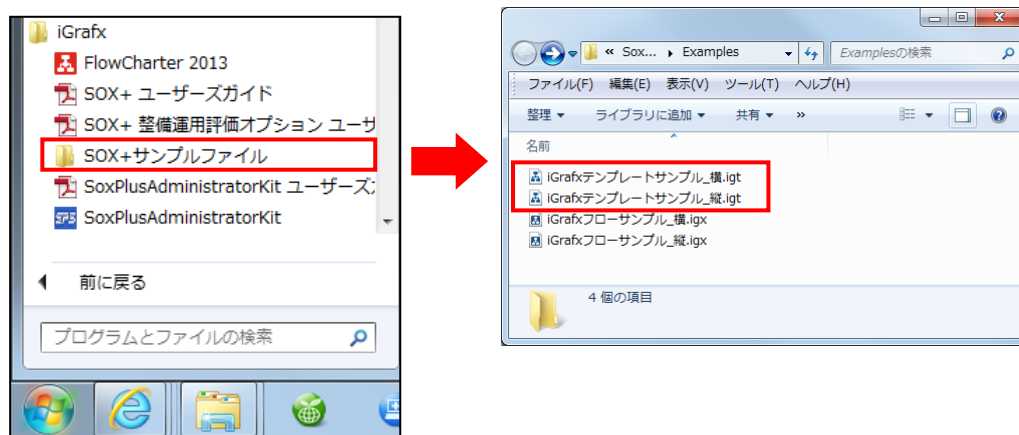
塗りつぶしと線の保護にチェックをした場合は、隣の書式ボタンがアクティブになり、そこで設定した書式が、フロー上で書式変更しようとしても保護されます。

iGrafxテンプレートの作成

iGrafxテンプレートサンプルの活用

SOX+をインストールすると、「スタート」メニューの中の「すべてのプログラム」の「iGrafx」メニューの中に「SOX+サンプルファイル」というメニューが入っています。iGrafx テンプレートを作成するには、サンプル iGrafx テンプレートをベースに自社用にカスタマイズすると便利です。

このメニューをクリックすると、SOX+で作図されたサンプルのフローや、iGrafx テンプレートのサンプルファイルが格納されているフォルダが開きます。



この中に以下の 2 種類の iGrafx テンプレートサンプルが保存されています。

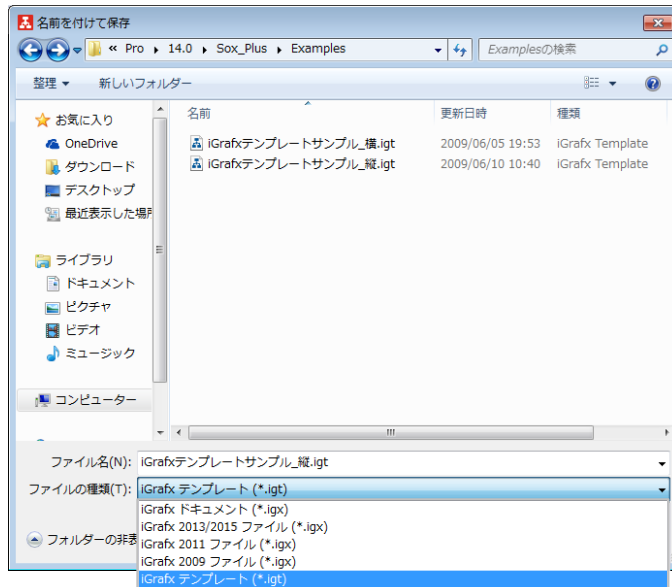
- ・ iGrafx テンプレートサンプル_縦.igt
- ・ iGrafx テンプレートサンプル_横.igt

各 iGrafx テンプレートサンプルでは、以下の設定があらかじめ定義されています。

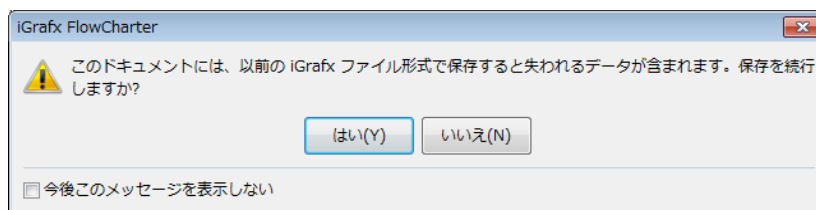
- ・ いくつかの Swimlane（それぞれ垂直、水平）を追加し初期設定
- ・ 図形ライブラリ、接続線ライブラリ（直角線の実線と点線のみ）のカスタマイズ
- ・ グリッドドットのスペースを 1 ミリへ変更
- ・ ページ外コネクタの自動コネクタ設定
- ・ インジケータのメモの表示位置の変更
- ・ ページ設定のページのスケールを 70%に設定
- ・ ページ設定のヘッダーの左と右セクションに出力変数をセット
- ・ ページ設定のオプションでブックモードを選択し、各ページに Swimlane のヘッダーが印刷されるよう設定
- ・ 図表のドキュメントのデフォルト設定で図形やテキストのフォントを 8 ポイントへ変更
- ・ 業務詳細項目のフィールド表示用のカスタムフィールドを定義（P80）

iGrafx テンプレートサンプルを開いて編集を行った場合、保存の際には必ず「名前を付けて保存」を選んで保存してください。その際に「ファイルの種類」で必ず「iGrafx テンプレート (*.igt)」を選択して保存してください。

※保存場所はどこでも結構です。



「iGrafx テンプレート (*.igt)」を選択して保存すると、以下のメッセージが表示されますので、「いいえ」をクリックしてください。



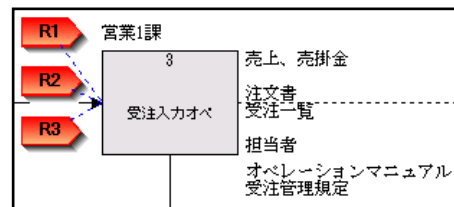
※このメッセージで「はい」を選んだ場合は、作成した igt ファイルは、iGrafx FlowCharter の iGrafx テンプレートを保存する領域へ保存し、「名前を付けて保存」で選択した保存場所にファイルが保存されません。

業務詳細項目フィールドの利用

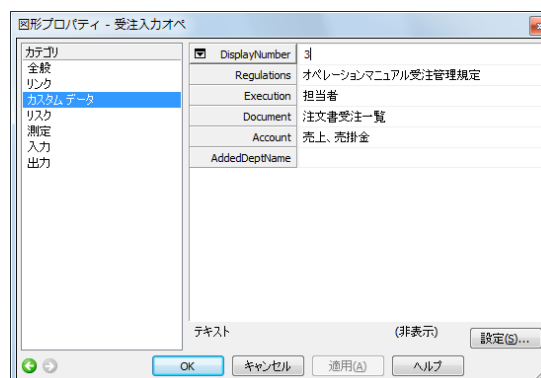
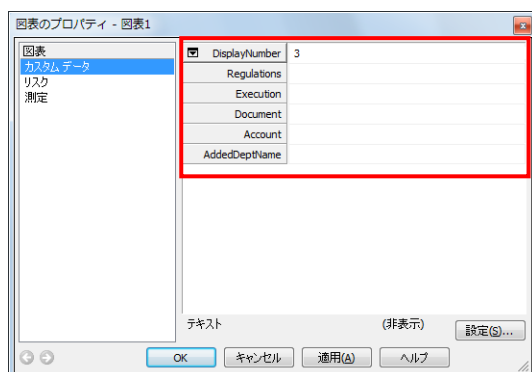
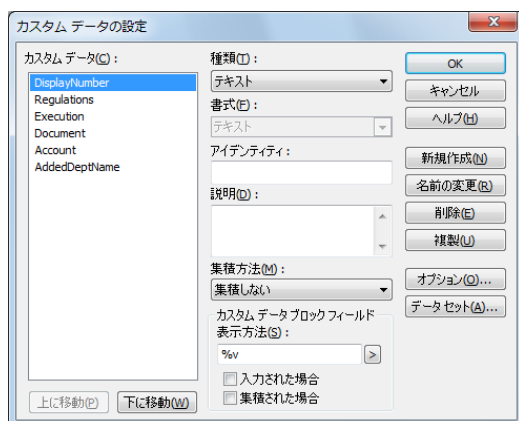
業務詳細のいくつかの項目は、図表に所定の「カスタム データ」プロパティを設定し、業務詳細図形に対応する「図形フィールド」を設定することで、図形の周りに項目の内容を表示させることができます。

※付属の「iGrafx テンプレートサンプル*.igt」では既に設定されています。

業務詳細ダイアログボックスで各項目を入力すると、自動的にその図形のプロパティの対応する「カスタムデータ」へ内容が転記され、さらにその「カスタムデータ」に対応する「図形フィールド」に表示されます。



カスタムデータ名	転記内容	種類	カスタムデータブロック
Regulations	規定文書	テキスト	<div> カスタムデータブロックフィールド 表示方法(s): <input type="text" value="%v"/> <input type="button" value="OK"/> </div> <div> <input type="checkbox"/> 入力された場合 <input type="checkbox"/> 集積された場合 </div> <p>※チェックをすべて外す</p>
Execution	業務実施者	テキスト	
Document	使用帳票	テキスト	
Account	勘定科目	テキスト	
AddedDeptName	追加部門	テキスト	



「カスタムデータ」の設定

「カスタム データ」プロパティは図表ごとに設定する必要があります。この機能を標準で使用される場合は、設定の手間を省くため、あらかじめ「カスタムデータ」プロパティを設定した iGrafx テンプレートを準備し、そこからフローチャートを作成するようにしてください。

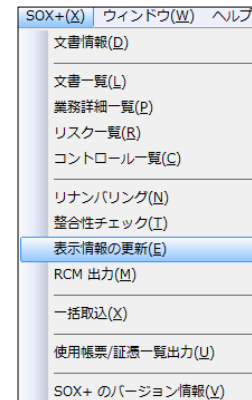
既存の図表でこの機能を利用したい場合は、「カスタムデータ」の設定をコピーするために、スタートメニューの「プログラム」の中の「iGrafx」の中の「SOX+サンプルファイル」フォルダにある「iGrafx フローサンプル_縦.igx」を開いてください。(P78)

開かれた図表上の適当な図形をコピーし、「カスタムデータ」プロパティを設定したい図表上へ貼り付けます。「カスタムデータ」プロパティが貼り付け先の図表にコピーされます。

貼り付けた図形はそのまま削除してください。「カスタム データ」プロパティの設定はコピーした図形を消しても図表内に設定が残ります。

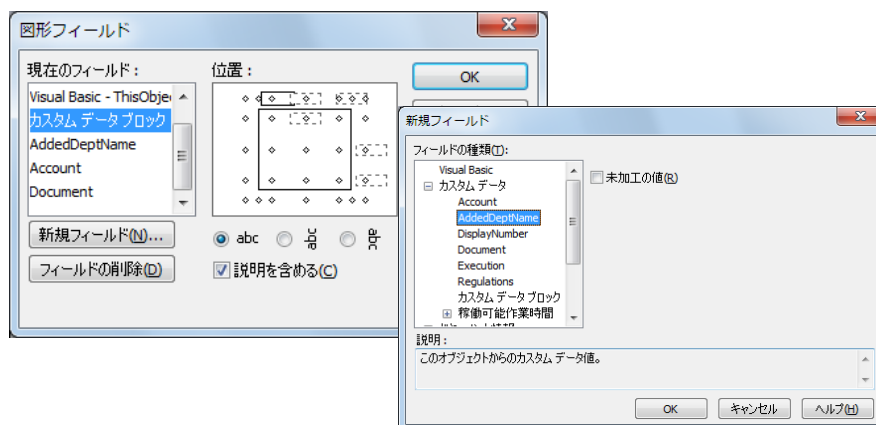
次に、業務詳細の各情報をカスタムデータへ転記するために、表示情報の更新を行います。「SOX+」メニューの「表示情報の更新」を選択してください。

業務詳細の項目に入力されていた内容が、「カスタム データ」プロパティの対応するカスタムデータに転記されます。



「図形フィールド」の設定

「カスタムデータ」プロパティに転記された情報を実際に図形に表示するには、図形に、「図形フィールド」が設定されている必要があります。

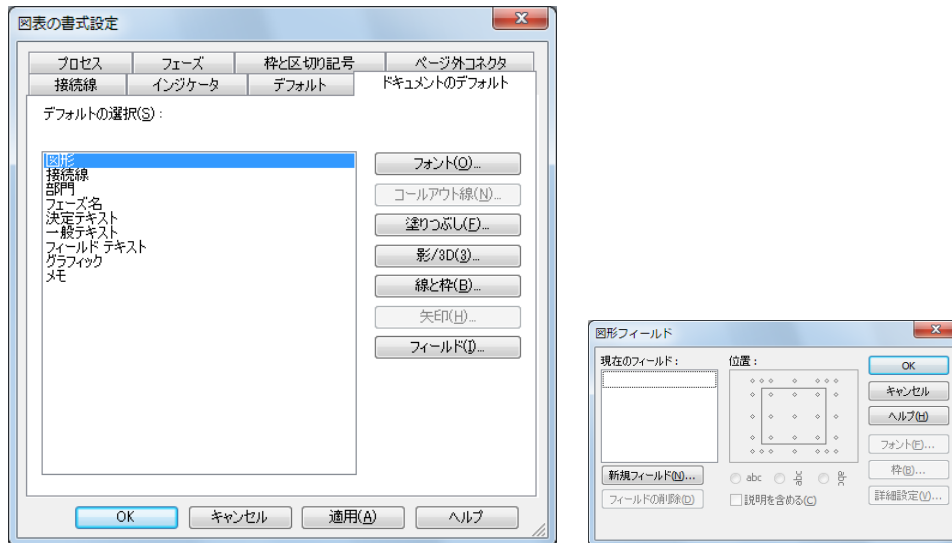


情報を表示したい図形を選択し、右クリックメニューの中の「フィールド」メニューを選択し、「図形フィールド」ダイアログボックスの「新規フィールド」ボタンを押します。

「新規フィールド」ダイアログボックスで「フィールドの種類」の「カスタムデータ」を開き、表示したいデータを選択して OK ボタンを押します。「図形フィールド」ダイアログボックス上で位置の調整を行って OK ボタンを押して図形フィールド ダイアログボックスを閉じます。

図形に最初から「図形フィールド」を設定しておきたい場合は、「書式」メニューの「図表」メニューから「図表の書式設定」ダイアログボックスの「ドキュメントのデフォルト」タブを開きます。

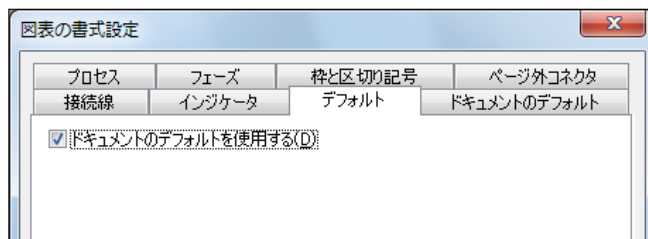
「デフォルトの選択」リストの中から「図形」を選択し、「フィールド」ボタンをクリックします。



ここで設定をしておくと、図形を配置したタイミングで図形フィールドが作成され、業務詳細ダイアログボックスでデータを入力した（カスタムデータ内にデータが転記された）と同時に画面にも表示されるようになります。

「デフォルト」タブを開き「ドキュメントのデフォルトを使用する」にチェックを入れておきます。

「ドキュメントのデフォルト」はファイル単位の設定です。ファイルに存在する各図表は、この「ドキュメントのデフォルト」の設定値を継承します。



図表毎に別の設定をする場合は、「デフォルト」タブの「ドキュメントのデフォルトを使用する」のチェックを外して、設定します。

第 1 1 章 付録

以下の表は、各シートの初期設定の列情報です。

【表示】が○の項目は初期設定の表示項目で、－は非表示項目を表します。

一括取込時に対象のデータが取り込まれるかどうかについては「取込」列をご参照ください。

「キー」：このキー項目が取込先フロー内のデータと一致しなければ全てのデータは取り込まれません。

「－」：このデータは取り込むことができません。

「テ」：テキストで入力された文章がそのまま取り込まれます。

「○」：Excel 上で「○」と入力されていると、取り込みにより画面の該当する項目にチェックがつきます。

「リ」：リスト項目に存在しているデータのみ取り込まれます。

業務記述シート列情報

列 No		表示	取込	項目名	説明および備考
1	A	○	キー		文書情報の文書識別を出力
2	B	－	－	会社名	文書情報の会社名を出力
3	C	－	－	事業拠点	文書情報の事業拠点を出力
4	D	－	－	ID	文書情報のプロセス ID を出力
5	E	－	－	プロセス名称	文書情報のプロセス名称を出力
6	F	－	－	ID	文書情報のサブプロセス ID を出力
7	G	－	－	サブプロセス名称	文書情報のサブプロセス名称を出力
8	H	－	－	ID	文書情報の業務 ID を出力
9	I	－	－	業務名称	文書情報の業務名称を出力
10	J	－	－	勘定科目	文書情報の勘定科目を出力
11	K	－	－	規定文書	文書情報の規定文書を出力
12	L	－	－	使用帳票	文書情報の使用帳票を出力
13	M	－	－	システム名	文書情報のシステム名を出力
14	N	－	－	フェーズ	業務詳細のあるフェーズ名を出力
15	O	－	－	業務番号ソート用	システム利用セル（変更不可）
16	P	－	－	業務詳細 ObjectID	システム利用セル（変更不可）

列 No		表示	取込	項目名		説明および備考
17	Q	○	キー	No		業務詳細の No を出力
18	R	○	テ	業務詳細名称		業務詳細の名称を出力
19	S	○	テ	業務詳細内容		業務詳細内容を出力
20	T	－	テ	図形名称		業務詳細図形に割り当てる図形の名称（新規取込時に参照されます）
21	U	－	テ	業務詳細勘定科目		業務詳細勘定科目を出力
22	V	－	－	部門（完全表記）		業務詳細のある部門名を出力 （親 Swimlane から通して名称を出力）
23	W	○	－	部門		業務詳細のある部門名を出力 （一番下位の Swimlane 名を出力）
24	X	○	テ	実施者		業務詳細の実施者を出力
25	Y	－	テ	規定文書		業務詳細の規定文書を出力
26	Z	－	テ	使用帳票		業務詳細の使用帳票を出力
27	AA	－	○	職務分離	保全	業務詳細の職務分離：保全
28	AB	－	○		承認	業務詳細の職務分離：承認
29	AC	－	○		記録	業務詳細の職務分離：記録
30	AD	－	○		コントロール	業務詳細の職務分離：コントロール
31	AE	－	○		予備	業務詳細の職務分離：予備
32	AF	－	○		予備	業務詳細の職務分離：予備
33	AG	－	○		予備	業務詳細の職務分離：予備
34	AH	－	○		予備	業務詳細の職務分離：予備
35	AI	－	○		予備	業務詳細の職務分離：予備
36	AJ	－	○		予備	業務詳細の職務分離：予備
37	AK	－	○		予備	業務詳細の職務分離：予備
38	AL	－	○		予備	業務詳細の職務分離：予備
39	AM	－	テ	システム名		業務詳細のシステム名を出力

列 No		表示	取込	項目名		説明および備考
40	AN	－	テ	備考		業務詳細の備考を出力
41	AO	－	－	(業務詳細 に紐付く) リスク	リスク ObjectID	紐付いているリスクの ObjectID
42	AP	－	－		No	紐付いているリスク No を出力
43	AQ	－	－		分類	紐付いているリスク分類番号を出力
44	AR	－	－		ラベル	紐付いているリスクラベルを出力
45	AS	－	－		リスク内容	紐付いているリスク内容を出力
46	AT	－	－		インパクト	紐付いているリスクのインパクトを 出力
47	AU	－	－	(業務詳細 に紐付く) コントロール	コントロール ObjectID	紐付いているコントロールの ObjectID
48	AV	－	－		No	紐付いているコントロールの No を 出力
49	AW	－	－		ラベル	紐付いているコントロールのラベル を出力
50	AX	－	－		コントロール 内容	紐付いているコントロールの内容を 出力

全てのデータは列の表示・非表示に関わらず存在していれば出力されますが、41～50（AO～AX）の「業務詳細に紐付くリスク・コントロールの情報」はオプション出力となっており、RCM テンプレートで非表示列となっている場合は出力されません。

RCMシート列情報

列 No		表示	取込	項目名	説明および備考
1	A	○	キー	文書識別	文書情報の文書識別を出力
2	B	－	－	会社名	文書情報の会社名を出力
3	C	－	－	事業拠点	文書情報の事業拠点を出力
4	D	－	－	ID	文書情報のプロセス ID を出力
5	E	－	－	プロセス名称	文書情報のプロセス名称を出力
6	F	－	－	ID	文書情報のサブプロセス ID
7	G	－	－	サブプロセス名称	文書情報のサブプロセス名称
8	H	－	－	ID	文書情報の業務 ID を出力
9	I	－	－	業務名称	文書情報の業務名称を出力
10	J	－	－	勘定科目	文書情報の勘定科目を出力
11	K	－	－	フェーズ	フェーズを出力
12	L	－	－	業務詳細 ObjectID	システム利用セル（変更不可）
13	M	○	－	No	業務詳細の No を出力
14	N	○	－	業務詳細名称	業務詳細の名称を出力
15	O	－	－	業務詳細 勘定科目	業務詳細の勘定科目を出力
16	P	－	－	部門(完全表記)	業務詳細のある部門名を出力 (親 Swimlane から通しで名称を出力)
17	Q	－	－	部門	Swimlane 名を出力
18	R	－	－	番号ソート用	システム利用セル（変更不可）
19	S	－	－	リスク ObjectID	システム利用セル（変更不可）
20	T	○	キー	No.	リスクナンバーを出力
21	U	－	テ	分類	リスク分類を出力
22	V	○	リ	カテゴリー	カテゴリーを出力
23	W	－	テ	ラベル	ラベルを出力

列 No		表示	取込	項目名		説明および備考
24	X	○	テ	リスク内容		リスク内容を出力
25	Y	－	テ	インパクト		インパクトを出力
26	Z	－	○	統制目的	報告の信頼性	選択されていたら【○】を出力
27	AA	－	○		業務の有効性及び効率性	選択されていたら【○】を出力
28	AB	－	○		事業活動に関わる法令等の遵守	選択されていたら【○】を出力
29	AC	－	○		資産の保全	選択されていたら【○】を出力
30	AD	－	○		予備	予備
31	AE	－	○		予備	予備
32	AF	－	○		予備	予備
33	AG	－	リ	影響度		影響度を出力
34	AH	－	リ	発生頻度		発生頻度を出力
35	AI	－	リ	影響範囲		影響範囲を出力
36	AJ	－	リ	損失想定		損失想定を出力
37	AK	－	テ	備考		備考を出力
38	AL	○	○	リスクアサーション	実在性	選択されていたら【○】を出力
39	AM	○	○		網羅性	選択されていたら【○】を出力
40	AN	○	○		権利と義務の帰属	選択されていたら【○】を出力
41	AO	○	○		評価の妥当性	選択されていたら【○】を出力
42	AP	○	○		期間配分の適切性	選択されていたら【○】を出力
43	AQ	○	○		表示の妥当性	選択されていたら【○】を出力
44	AR	－	○		予備	予備
45	AS	－	○		予備	予備
46	AT	－	○		予備	予備
47	AU	－	○		予備	予備

列 No		表示	取込	項目名		説明および備考
48	AV	－	○		予備	予備
49	AW	－	○		予備	予備
50	AX	－	○		予備	予備
51	AY	－	○		予備	予備
52	AZ	－	－	ターゲット リスク	文書識別	ターゲットリスクの文書識別
53	BA	－	－		リスクの ObjectID	システム利用セル（変更不可）
54	BB	－	－		ファイル名	ターゲットリスクのファイル名
55	BC	－	－		リスク No.	ターゲットリスクナンバー
56	BD	－	○	コントロール アサーション	実在性	選択されていたら [○] を出力
57	BE	－	○		網羅性	選択されていたら [○] を出力
58	BF	－	○		権利と義務の帰属	選択されていたら [○] を出力
59	BG	－	○		評価の妥当性	選択されていたら [○] を出力
60	BH	－	○		期間配分の適切性	選択されていたら [○] を出力
61	BI	－	○		表示の妥当性	選択されていたら [○] を出力
62	BJ	－	○		予備	予備
63	BK	－	○		予備	予備
64	BL	－	○		予備	予備
65	BM	－	○		予備	予備
66	BN	－	○		予備	予備
67	BO	－	○		予備	予備
68	BP	－	○		予備	予備
69	BQ	－	○		予備	予備
70	BR	○	キー	文書識別		文書情報の文書識別を出力
71	BS	－	－	会社名		文書情報の会社名を出力
72	BT	－	－	事業拠点		文書情報の事業拠点を出力

列 No		表示	取込	項目名	説明および備考
73	BU	－	－	ID	文書情報のプロセス ID を出力
74	BV	－	－	プロセス名称	文書情報のプロセス名称を出力
75	BW	－	－	ID	文書情報のサブプロセス ID
76	BX	－	－	サブプロセス名称	文書情報のサブプロセス名称
77	BY	－	－	ID	文書情報の業務 ID を出力
78	BZ	－	－	業務名称	文書情報の業務名称を出力
79	CA	－	－	勘定科目	文書情報の勘定科目を出力
80	CB	－	－	フェーズ	フェーズを出力
81	CC	－	－	業務詳細 ObjectID	システム利用セル（変更不可）
82	CD	○	－	No	業務詳細の No を出力
83	CE	○	－	業務詳細名称	業務詳細の名称を出力
84	CF	－	－	番号ソート用	システム利用セル（変更不可）
85	CG	－	－	コントロール Object ID	システム利用セル（変更不可）
86	CH	○	キー	No	コントロール No を出力
87	CI	－	テ	ラベル	ラベルを出力
88	CJ	○	テ	コントロール内容	コントロール内容を出力
89	CK	○	リ	統制タイプ	統制タイプを出力
90	CL	○	リ	統制頻度	統制頻度を出力
91	CM	－	リ	随時の発生頻度（非表示項目）	随時の発生頻度を出力
92	CN	－	－	部門(完全表記)	業務詳細のある部門名を出力 (親 Swimlane から通して名称を出力)
93	CO	○	－	部門	Swimlane 名を出力
94	CP	○	テ	実施者	実施者を出力
95	CQ	○	テ	証憑	証憑を出力
96	CR	○	テ	規定文書	規定文書を出力

列 No		表示	取込	項目名		説明および備考
97	CS	○	テ	システム名		システム名を出力
98	CT	－	○	統制分類	承認・決裁	選択されていたら [○] を出力
99	CU	－	○		管理者等のレビュー	選択されていたら [○] を出力
100	CV	－	○		照合	選択されていたら [○] を出力
101	CW	－	○		職務の分離による内部牽制	選択されていたら [○] を出力
102	CX	－	○		規定・マニュアル整備	選択されていたら [○] を出力
103	CY	－	○		予算比等の指標チェック	選択されていたら [○] を出力
104	CZ	－	○		エラー・例外の抽出	選択されていたら [○] を出力
105	DA	－	○		システム上の統制	選択されていたら [○] を出力
106	DB	－	○		アクセス制限	選択されていたら [○] を出力
107	DC	－	○		予備	予備
108	DD	－	○		予備	予備
109	DE	－	○		予備	予備
110	DF	－	○		予備	予備
111	DG	－	○		予備	予備
112	DH	－	○		予備	予備
113	DI	－	○		予備	予備
114	DJ	○	○	種類	予防的	選択されていたら [○] を出力
115	DK	○	○		発見的	選択されていたら [○] を出力
116	DL	－	○		予備	予備
117	DM	○	○	程度	一次的	選択されていたら [○] を出力
118	DN	○	○		二次的	選択されていたら [○] を出力

列 No		表示	取込	項目名		説明および備考
119	DO	－	○		予備	予備
120	DP	○	リ	統制レベル		統制レベルを出力
121	DQ	－	○	統制不備		選択されていたら [○] を出力
122	DR	－	○	種類 (ターゲット リスク属性)	予防的	選択されていたら [○] を出力
123	DS	－	○		発見的	選択されていたら [○] を出力
124	DT	－	○		予備	予備
125	DU	－	○	程度 (ターゲット リスク属性)	一次的	選択されていたら [○] を出力
126	DV	－	○		二次的	選択されていたら [○] を出力
127	DW	－	○		予備	予備
128	DX	－	リ	統制レベル (ターゲットリスク属性)		統制レベルを出力
129	DY	－	○	統制不備 (ターゲットリスク属性)		選択されていたら [○] を出力
130	DZ	－	○	テスト詳細	方法	テスト方法を出力
131	EA	－	○		実施者	テスト実施者を出力
132	EB	－	○		周期	テスト周期を出力
133	EC	－	○	備考		備考を出力

使用帳票一覧シート列情報

このシートの情報は一括取込対象外です。

列 No		表示	項目名	説明および備考
1	A	○	文書識別	文書情報の文書識別を出力
2	B	－	会社名	文書情報の会社名を出力
3	C	－	事業拠点	文書情報の事業拠点を出力
4	D	－	ID	文書情報のプロセス ID を出力
5	E	－	プロセス名称	文書情報のプロセス名称を出力
6	F	－	ID	文書情報のサブプロセス ID を出力
7	G	－	サブプロセス名称	文書情報のサブプロセス名称を出力
8	H	－	ID	文書情報の業務 ID を出力
9	I	－	業務名称	文書情報の業務名称を出力
10	J	－	勘定科目	文書情報の勘定科目を出力
11	K	－	フェーズ	業務詳細のあるフェーズ名を出力
12	L	○	使用帳票	業務詳細の使用帳票を出力
13	M	－	業務番号ソート用	システム利用セル（変更不可）
14	N	－	業務詳細 ObjectID	システム利用セル（変更不可）
15	O	○	No	業務詳細の No を出力
16	P	○	業務詳細名称	業務詳細の名称を出力
17	Q	－	業務詳細内容	業務詳細内容を出力
18	R	－	業務詳細勘定科目	業務詳細勘定科目を出力
19	S	－	部門（完全表記）	業務詳細のある部門名を出力 （親 Swimlane から通して名称を出力）
20	T	○	部門	業務詳細のある部門名を出力 （一番下位の Swimlane 名を出力）
21	U	○	実施者	業務詳細の実施者を出力
22	V	－	規定文書	業務詳細の規定文書を出力

列 No		表示	項目名		説明および備考
23	W	－	職務分離	保全	選択されていたら [○] を出力
24	X	－		承認	選択されていたら [○] を出力
25	Y	－		記録	選択されていたら [○] を出力
26	Z	－		コントロール	選択されていたら [○] を出力
27	AA	－		予備	予備
28	AB	－		予備	予備
29	AC	－		予備	予備
30	AD	－		予備	予備
31	AE	－		予備	予備
32	AF	－		予備	予備
33	AG	－		予備	予備
34	AH	－		予備	予備
35	AI	－	システム名		業務詳細のシステム名を出力
36	AJ	－	備考		業務詳細の備考を出力

証憑一覧シート列情報

このシートの情報は一括取込対象外です。

列 No		表示	項目名	説明および備考
1	A	○	文書識別	文書情報の文書識別を出力
2	B	－	会社名	文書情報の会社名を出力
3	C	－	事業拠点	文書情報の事業拠点を出力
4	D	－	ID	文書情報のプロセス ID を出力
5	E	－	プロセス名称	文書情報のプロセス名称を出力
6	F	－	ID	文書情報のサブプロセス ID
7	G	－	サブプロセス名称	文書情報のサブプロセス名称
8	H	－	ID	文書情報の業務 ID を出力
9	I	－	業務名称	文書情報の業務名称を出力
10	J	－	勘定科目	文書情報の勘定科目を出力
11	K	○	証憑	コントロールの証憑を出力
12	L	－	フェーズ	フェーズを出力
13	M	－	業務詳細 ObjectID	システム利用セル（変更不可）
14	N	○	No	業務詳細の No を出力
15	O	○	業務詳細名称	業務詳細の名称を出力
16	P	－	番号ソート用	システム利用セル（変更不可）
17	Q	－	コントロール Object ID	システム利用セル（変更不可）
18	R	○	No	コントロール No を出力
19	S	－	ラベル	コントロールのラベルを出力
20	T	－	コントロール内容	コントロール内容を出力
21	U	○	統制タイプ	コントロールの統制タイプを出力
22	V	○	統制頻度	コントロールの統制頻度を出力
23	W	－	随時の発生頻度（非表示項目）	コントロールの随時の発生頻度を出力

列 No		表示	項目名		説明および備考
24	X	－	部門(完全表記)		業務詳細のある部門名を出力 (親 Swimlane から通しで名称を出力)
25	Y	○	部門		Swimlane 名を出力
26	Z	○	実施者		コントロールの実施者を出力
27	AA	－	規定文書		コントロールの規定文書を出力
28	AB	－	システム名		コントロールのシステム名を出力
29	AC	－	統制分類	承認・決裁	選択されていたら [○] を出力
30	AD	－		管理者等のレビュー	選択されていたら [○] を出力
31	AE	－		照合	選択されていたら [○] を出力
32	AF	－		職務の分離による内部牽制	選択されていたら [○] を出力
33	AG	－		規定・マニュアル整備	選択されていたら [○] を出力
34	AH	－		予算比等の指標チェック	選択されていたら [○] を出力
35	AI	－		エラー・例外の抽出	選択されていたら [○] を出力
36	AJ	－		システム上の統制	選択されていたら [○] を出力
37	AK	－		アクセス制限	選択されていたら [○] を出力
38	AL	－		予備	予備
39	AM	－		予備	予備
40	AN	－		予備	予備
41	AO	－		予備	予備
42	AP	－		予備	予備
43	AQ	－		予備	予備
44	AR	－		予備	予備
45	AS	○	統制レベル		コントロールの統制レベルを出力

列 No		表示	項目名		説明および備考
46	AT	－	テスト詳細	方法	コントロールのテスト方法を出力
47	AU	－		実施者	コントロールのテスト実施者を出力
48	AV	－		周期	コントロールのテスト周期を出力
49	AW	－	備考		コントロールの備考を出力



<https://www.sunplanning.co.jp/>